

平成 24 年 (2012)

# JA てんどう病害虫防除暦

安全・安心な天童の農産物を消費者へ届けるために

- 農薬の使用基準を守り適正な防除に努めましょう。
- 生産工程管理表を正確に必ず記入しましょう。
- 農薬散布時の飛散には十分注意し、住民及び環境に対する安全に努めましょう。

## 水 100 ℓ 当たり農薬希釈早見表

倍率	30倍	50	100	200	250	300	350	400	450	500	600	700	750
薬剂量 g・mℓ	3,333	2,000	1,000	500	400	333	285	250	222	200	166	142	133

倍率	800倍	1,000	1,200	1,500	2,000	2,500	3,000	4,000	5,000	6,000	7,000	8,000	10,000
薬剂量 g・mℓ	125	100	83	66	50	40	33	25	20	16	14	12	10

希釈農薬量算出式 (水和剤・水溶液・フロアブル・乳剤・液剤)  
散布量 (水 : 薬) ÷ 希釈倍数 × 1,000 = 必要農薬量 (g・ml)



J A て ん ど う

J A 全 農 山 形

天童市農協農畜産物安全安心推進本部

JA てんどう情報サービス

<http://www.jatendo.or.jp/>

# 平成24年 水稲病害虫防除基準



2011年12月現在

## 種子消毒 ※種子更新は、毎年必ず行う。

対象病害虫	使用薬剤	使用方法	注意事項	月日	防除実績 (メモ)
いもち病・苗立枯細菌病 ばか苗病・もみ枯細菌病 ごま葉枯病 苗立枯病 (ツブス菌+リゾブス菌)	テクリードCフロアブル  (浸種前：1回)	浸漬処理 塩水洗を行ない、水洗いした種もみの水を切り、200倍液 (水20ℓに対してテクリードCフロアブル現物100ml) に24時間浸漬する。浸漬後に陰干しは省くことができる。	①薬液の使用量 乾燥種もみ 水 テクリードCフロアブル 10kg 20ℓ 100ml ②使用後の薬剤は水路や池にすてないようにする。	／	

## 育苗期 ※生もみから、わらなどは、ばか苗病、いもち病の伝染源になるので催芽および育苗資材には使用しない。 ※育苗箱施用剤を使用した場合は、同一場所の後作で野菜等を栽培しない。

時期	対象病害虫	使用薬剤		使用方法	注意事項	月日	防除実績 (メモ)
		一般体系	省力体系				
は種前 (土壌混和)	苗立枯病 (ピシウム菌) (フザリウム菌)	タチガレエースM粉剤 (は種前：1回)	-	粉剤は1箱当たり8g使用し、育苗箱土壌に均一に混和する。	①適正酸度 (PH4.5~5.5) の土壌を使用する。 ②人工培土を使用する場合でも混和する。	／	
は種時	苗立枯病 (ピシウム菌) (フザリウム菌) (リゾブス菌)	-	タチガレエースM液剤 混用 ダコニール1000 (は種時：1回)	は種時に、灌水をかかえて、タチガレエースM液剤とダコニール1000を、それぞれ1.000倍になるように混用 (水10ℓに各薬剤10mlずつ加える) し、1箱当たり500mlを注する。	①リゾブス菌・細菌性病害の発生を防ぐため出芽の土温は30℃以上しない。 ②液温を20℃前後で使用する。(白化現象を防ぐため)	／	
発芽後	苗立枯病 (リゾブス菌)	ダコニール1000 (は種時～は種14日後：2回以内)	-	500倍 (20ml/10ℓ) 液を1箱当たり500mlを注する。		／	
育苗期 (は種7~10日後)	苗立枯病 (フザリウム菌) (ピシウム菌) ムレ苗防止	タチガレン液剤 (は種時及び発芽後：2回以内)	-	は種7~10日後から平均気温が10℃以下の日が2~3日続いた時はタチガレン液剤500倍 (20ml/10ℓ) 液を1箱当たり500mlを注して予防する。	①は種時までにタチガレエースM剤を使用しない場合は、タチガレエースM液剤 (500倍・500ml/箱発芽後1回) を使用しても良い。	／	

## 本田期 ※田植時の箱処理剤(ブイグットフェルテラ粒剤)を使用した防除体系

時期	対象病害虫	使用薬剤	適正使用基準 使用時期 使用回数	使用方法	注意事項	月日	防除実績 (メモ)
緑化期 ～ 移植当日	いもち病 イネミスゾウムシ イネドロオウムシ ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ フタオビコヤガ (イネアオムシ) 白葉枯病	ブイグットフェルテラ粒剤	緑化期 ～ 移植当日 1回	緑化期～移植当日に1箱当たり50gを育苗箱の上から均一に散布する。	薬害が出る恐れがあるので次の事項に注意する。 ①軟弱徒長苗には使用しない。 ②本田が砂質土壌及び漏水の甚だしい所では使用しない。 ③茎葉に付着した薬剤は払い落とし、軽く散水する。 ④移植後は、すみやかに灌水する。 ⑤本剤を使用した苗は予備苗としない。 ※箱処理剤を使用した場合は、同一場所の後作で野菜等を栽培しない。	／	
イネドロオウムシ対策		前年、箱処理剤の使用後にイネドロオウムシの発生が見られる所では、6月上～中旬にシクロバック粒剤 10個 (600g) / 10a (収穫60日前まで2回以内) またはトレボン粒剤 2kg / 10a (収穫21日前まで3回以内) を散布する。					
カメムシの耕種的防除		①カメムシの発生密度を下げるため、常日頃から畦畔・農道などの草刈りを徹底する。 ②出穂間近の草刈りはカメムシを水田に侵入させるので、草刈りは7月末までに行かない、その後、8月下旬 (8月25日頃) まで草刈りは行わない。					
7月下旬 (7月25日頃)	いもち病	コラトップ粒剤5	出穂30日前 5日前まで 2回以内	灌水して10a当たり3kg散布する。	①散布時は灌水 (水深3cm以上) にし、散布後は7日間は落水、かけ流しはしない。 ②紋枯病が心配される所では、コラトップリンパー粒剤 (いもち病+紋枯病) 3kg/10aを使用する。	／	
8月上旬 (8月5日頃)	ウンカ類 カメムシ類 ニカメイチュウ ツマグロヨコバイ	スタークル粒剤	収穫 7日前まで 3回以内	灌水して10a当たり3kg散布する。	①散布時は灌水 (水深3cm以上) にし、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。	／	

## 無人ヘリによる防除体系

時期	対象病害虫	使用薬剤	適正使用基準 使用時期 使用回数	使用方法	注意事項	月日	防除実績 (メモ)
緑化期 ～ 移植当日	いもち病 イネミスゾウムシ イネドロオウムシ ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ フタオビコヤガ (イネアオムシ) 白葉枯病	ブイグットフェルテラ粒剤	緑化期 ～ 移植当日 1回	緑化期～移植当日に1箱当たり50gを育苗箱の上から均一に散布する。	①必ず全面使用する。  ※ 上記注意事項参照	／	
出穂直後 8月上旬 (8月7~12日頃)	いもち病 紋枯病 カメムシ類 ウンカ類 ツマグロヨコバイ	アミスタートレボンSE	収穫 14日前まで 3回以内	8倍液を10a当たり800mlを無人ヘリで散布する。	①穂いもち病防除の重要な時期なので防除を徹底する。 ②カメムシ類の重要な防除時期なので、畦畔を含めて防除する。	／	
乳熟期 8月中旬 (8月15~20日頃)	カメムシ類 ウンカ類	スタークル液剤10	収穫 7日前まで 3回以内	8倍液を10a当たり800mlを無人ヘリで散布する。	①カメムシ類の重要な防除時期なので、畦畔を含めて防除する。	／	

## 水稲倒伏軽減剤

薬剤名	使用時期	使用量 (10a当たり)	使用回数	注意事項	月日	防除実績 (メモ)
スマレクト粒剤	出穂20~7日前	2kg	1回	①散布時は灌水状態で使用する。 ②重複散布や多量散布にならないようにする。 ③散布後、7日間は落水やかけ流しをしない。	／	

## 除草剤の使用基準

※除草剤散布後7日間は落水しない。  
 ※除草剤の散布にあたっては、畦畔等からの漏水を防止することにより、効果のアップを図る。  
 ※移植後好天が続くと、藻類・浮草・表層はく離が多発するので、除草剤は使用適期の早い時期に散布する。  
 ※藻類・浮草・表層はく離が多発している水田では、拡散が不十分となり効果が劣ることがある。  
 ※除草剤を移植時処理する場合は、田植同時散布機で施用する。

### 体系処理 (初期+中期)

- (1) ホタルイ(雑草)が少ない圃場
- (2) ホタルイ(雑草)が多い圃場

圃場状況	除草剤	ホタルイ	アゼナ	移植後	10aあたり	効果
(1) ホタルイ(雑草)が少ない圃場	キルクサ1キロ粒剤	○	◎	移植直後 ~ 移植後5日 ノビエ1葉まで	1kg	◎
	ダッシュワン1キロ粒剤	◎	◎	移植直後 ~ 移植後5日 ノビエ1葉まで	1kg	◎
(2) ホタルイ(雑草)が多い圃場	農将軍フロアブル	◎	◎	移植直後 ~ 移植後5日 ノビエ1葉まで	300ml	◎
	マメットSM1キロ粒剤	◎	◎	移植後20~30日 使用量 1kg (10aあたり)		◎
	ザーベックスDX1キロ粒剤	◎	◎	移植後20~30日 使用量 1kg (10aあたり)		◎
	フォロアップ1キロ粒剤	◎	◎	移植後25~30日 使用量 1kg (10aあたり)		◎

### 一発処理剤

- (1) 粒剤
- \* 水持ちの悪い水田のヒエ対策
- (2) フロアブル剤
- (3) 投げ込み剤

剤形	薬剤名	ホタルイ	アゼナ	ノビエへの 使用時期	使用量	使用時期	注意事項
(1) 粒剤	パッチリ1キロ粒剤	◎	◎	2.5葉まで	(10aあたり) 1kg	移植時または 移植直後~15日	①過剰散布にならないよう事前に散布機の吐出量を確認する。 ②散布時期が遅れると効果が劣る恐れがあるので、適期に散布する。 ③散布後7日間は止水とし、田面を露出させない。
	ピクトリーZ1キロ粒剤	◎	◎	3.0葉まで		移植時または 移植直後~15日	
	ゲットスター1キロ粒剤	◎	◎	2.5葉まで		移植後 5~15日	
* 水持ちの悪い水田の ヒエ対策	アピロキリオMX1キロ粒剤75	◎	◎	3.0葉まで	(10aあたり) 1kg	移植後 5~20日	①水持ちの悪い水田で、前年ヒエが残った水田、毎年ヒエが発生する水田で使用する。 ②散布後7日間は止水とし、田面を露出させない。
(2) フロアブル剤	パッチリフロアブル	◎	◎	2.5葉まで	(10aあたり) 500ml	移植時または 移植直後~15日	①散布前にボトルを軽く振って攪拌する。 ②散布は、水の出入りを止め湛水状態で原液のまま田面に散布する。 ③散布後7日間は止水とし、田面を露出させない。 ④砂質土壌・漏水の大きな水田では使用しない。 ⑤藻類や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり効果が劣ることがあるので使用しない。
	ピクトリーZフロアブル	◎	◎	3.0葉まで		移植後 5~15日	
	ゲットスターフロアブル	◎	◎	2.5葉まで		移植後 5~15日	
(3) 投げ込み剤	パッチリジャンボ	◎	◎	2.5葉まで	(10aあたり) 10個(400g)	移植直後 ~15日	①散布は、水の出入りを止め、水深5~6cmに湛水して投げ込む。 ②散布後7日間は止水とし、田面を露出させない。 ③藻類や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり効果が劣ることがあるので使用しない。
	ピクトリーZジャンボ	◎	◎	3.0葉まで	(10aあたり) 10個(400g)	移植後 5~15日	
	ゲットスタージャンボ	◎	◎	2.5葉まで	(10aあたり) 10個(300g)	移植後 5~15日	

### 残草対策

薬剤名	対象雑草	ノビエへの 使用時期	10aあたり使用量	使用時期	注意事項
ワイドパワー粒剤	ノビエ・広葉雑草	5葉期まで 苗播の場合 4葉期まで	3kg	移植後20~30日 収穫60日前まで	①散布する時は、落水して土壌が十分湿っている状態で散布し、3日間は入水しない。
バサグラン粒剤	広葉雑草のみ	-	3~4kg	移植後15~50日 収穫60日前まで	
クリンチャーバスメ液剤	ノビエ・広葉雑草	5葉期まで	1% (希釈水量70~100%)	移植後25~40日 収穫50日前まで	①散布前に落水して使用する。散布後3日間は入水しない。 ②雨天が予想される場合は散布しない。
ワイドアタックSC	ノビエ・広葉雑草	5葉期まで	100ml (希釈水量 100%)	移植後25~40日 収穫30日前まで	
バサグラン液剤	広葉雑草のみ	-	500~700ml (希釈水量70~100%)	移植後15~50日 収穫50日前まで	
クリンチャージャンボ	ノビエのみ	4葉期まで	30個(1.5kg)	移植後25~35日 収穫40日前まで	①湛水状態(水深3~5cm)にし、水の出入りを止めてから散布し、田面を露出させない。

処理月日 除草剤名	除草剤処理日		除草機
	月 日	月 日	
			/ ~ /

## 大豆病害虫防除基準

種子消毒	ハト対策と合わせて、キビンを乾燥種子重量の1%種子粉衣する。	適正使用基準	防除実績
タネバエ	カルボス微粒剤Fを6g/10a散布し土とよく混和する。	は種前1回 は種時2回以内	
紫斑病及びマメシクイガ	スミチオン乳剤1,000倍とトップジンM水和剤1,000倍を混用し、散布する。 (収穫21日前まで) (収穫14日前まで)	収穫21日前まで4回以内 ※スミチオン乳剤は、アブラナ科野菜(ハクサイ、青菜、ダイコンなど)に薬害があるので注意する。	

## 大豆、飼料用とうもろこしの除草剤

作物	除草剤名	10aあたり使用量	散布時期および使用方法	注意事項	防除実績
大豆	エコトップ乳剤	500ml (希釈水量 100%)	は種後発芽前 (雑草発生前) 1回 全面土壌散布	①畑地1年生雑草(イネ科雑草、広葉雑草)に効果を示す。 ②生育期の作物に付着すると、葉先が黄化する。	
	飼料用とうもろこし	400ml (希釈水量 70~100%)	は種後発芽前(雑草発生前) または 生育期(とうもろこし2~4葉期) 1回 全面土壌散布	①農薬は加用しない。 ②薬害が生ずる恐れがあるので、砕土、整地及び覆土は丁寧に行う。 ③極端な湿土壌及び砂質土壌で使用する場合には、生育を抑えることがあるので少なめに薬量を散布する。 ④砂土では使用しない。	

# ねぎの防除暦

病害虫防除

10月収穫

月	旬	作業	登録のある病害虫	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績(使用月日)						
					倍率・ 施用量(10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	
5月	定植時		1年生雑草	ゴーゴーサン乳剤30	300ml	定植後(雑草発生)直し定植10日後まで	1回		/						
			ネギハモグリバエ、ネギアザミウマ	バストガード粒剤	6kg	定植時	1回	定植時1回、生育期2回以内	/						
			ネキリムシ類	ガードバイトA	3kg	生育初期	3回	株元散布	/	/	/				
6月	上		アザミウマ類、ネギハモグリバエ、ネダニ	シメトエート粒剤	6kg	定植前~収穫30日前	3回以内		/	/	/				
			べと病、黒斑病、さび病	※ジマンダイセン水和剤	600倍	収穫30日前	3回以内	※ジマンダイセン水和剤、リドミルゴールドMZ、	/	/	/				
			べと病	※リドミルゴールドMZ	1,000倍	収穫30日前	3回以内	総使用回数は3回以内	/	/	/				
6月	中		アザミウマ類、ネギハモグリバエ、ネギコガ、アブラムシ類	ダイアジノン乳剤40	1,000倍	収穫21日前	2回以内		/	/	/				
			べと病	※リドミルゴールドMZ	1,000倍	収穫30日前	3回以内		/	/	/				
			1年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)	ナブ乳剤	150ml	雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期)収穫30日前	1回		/						
7月	上	土寄せ	1年生雑草	ブリグロックSL	1,000ml	3日前(軽微処理)	3回以内	雑草茎葉散布	/	/	/				
			軟腐病	オリゼート粒剤	6kg	土寄せ時、収穫30日前	2回以内	株元散布	/	/					
			べと病、軟腐病	Zボルドー	500倍	-	-	単剤使用	/	/	/	/	/		
7月	中		ネギアザミウマ、ネギハモグリバエ、ネギコガ	ガゼット粒剤	6kg	定植時~収穫45日前	2回以内	定植時1回、生育期2回まで、合わせて2回以内	/	/					
			シロイチモジトウ、ネギハモグリバエ	カスケード乳剤	4,000倍	収穫14日前	3回以内	脱皮阻害剤なので遅効性	/	/	/				
			黄斑病、黒斑病、さび病	ストロビーフロアブル	2,000倍	収穫7日前	3回以内		/	/	/				
8月	上	高温時の土寄せは避ける	アザミウマ類、シロイチモジトウ、ネギハモグリバエ	ディアナSC	2,500倍	前日まで	2回以内		/	/	/				
			黒斑病、小菌核腐敗病	ロブラール水和剤	1,000倍	収穫14日前	3回以内	500倍で白絹病の登録あり。	/	/	/				
			シロイチモジトウ	コテツフロアブル	2,000倍	収穫7日前	2回以内		/	/	/				
8月	中		アザミウマ類	モスピラン水溶性	2,000倍	収穫7日前	3回以内		/	/	/				
			ネギハモグリバエ、ネギアザミウマ	ダントツ粒剤	6kg	収穫21日前	2回以内	株元散布	/	/	/				
			べと病、黒斑病、さび病	アミスター20フロアブル	2,000倍	収穫3日前	4回以内	単剤使用 混用・展着剤不可	/	/	/	/			
9月	上	土寄せ	アザミウマ類、ネギハモグリバエ、ネギコガ、アブラムシ類	アグロスリン乳剤	2,000倍	収穫7日前	5回以内	1000倍でシロイチモジトウの登録あり。	/	/	/	/	/		
			べと病、小菌核腐敗病、黒斑病、葉枯病	ダコニール1000	1,000倍	収穫14日前	3回以内		/	/	/				
			べと病	アリエッティ水和剤	800倍	収穫3日前	3回以内		/	/	/				
10月	上	収穫	べと病、黒斑病、さび病	アミスター20フロアブル	2,000倍	収穫3日前	4回以内	単剤使用 混用・展着剤不可	/	/	/	/			
			さび病、黒斑病	オンリーワンフロアブル	1,000倍	収穫14日前	3回以内		/	/	/				
			べと病	ランマンフロアブル	2,000倍	収穫3日前	4回以内		/	/	/	/			
10月	中		さび病	サブロー乳剤	1,000倍	収穫7日前	5回以内		/	/	/	/	/		
			べと病、黒斑病、さび病	アミスター20フロアブル	2,000倍	収穫3日前	4回以内	単剤使用 混用・展着剤不可	/	/	/	/			
			さび病	ラリー水和剤	2,000倍	収穫7日前	3回以内		/	/	/				
11月	下	収穫	アザミウマ類、シロイチモジトウ、ネギハモグリバエ	ディアナSC	2,500倍	前日まで	2回以内		/	/	/				
			シロイチモジトウ、ネギアザミウマ	フレオフロアブル	1,000倍	収穫3日前	4回以内		/	/	/	/			

# ほうれんそうの防除暦

病害虫防除

月	作業	登録のある病害虫	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績(使用月日)					
				倍率・ 施用量(10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
9月	播種前~ 開引き前 開引き	べと病	リドミル粒剤2	9kg	播種時	1回	全面土壌混和	/					
		1年生雑草	ラッソー乳剤	150ml	播種直後	1回	全面土壌散布	/					
		べと病	ビスダイセン水和剤	500倍	本葉2葉期まで45日前まで	2回以内	予防的に散布する	/	/				
		アブラムシ類	マラソン乳剤	2,000倍	14日前まで	4回以内		/	/	/	/		
		べと病	ビスダイセン水和剤	500倍	本葉2葉期まで45日前まで	2回以内	予防的に散布する	/	/				
10月		アシロハモグリバエ、ホウレンソウケナガコナダニ	★カスケード乳剤	4,000倍	3日前まで	3回以内	脱皮阻害剤なので遅効性	/	/	/			
		べと病	ランマンフロアブル	2,000倍	3日前まで	3回以内		/	/	/			
		べと病	レーバフロアブル	2,000倍	7日前まで	2回以内		/	/	/			
11月	収穫	アブラムシ類、ヨトウムシ	★アグロスリン乳剤	2,000倍	7日前まで	5回以内	抵抗性害虫出現防止のため連用を避ける	/	/	/	/	/	
		べと病	アリエッティ水和剤	1,500倍	前日まで	2回以内		/	/	/			
11月	収穫	アブラムシ類、ネギアザミウマ	アドマイヤーフロアブル	4,000倍	前日まで	2回以内		/	/				

★は発生時に散布

# こまつなの防除薬剤

病害虫防除

	登録のある病害虫	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績(使用月日)		
			倍率・ 施用量(10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目
は種時	根こぶ病	ネビジン粉剤	30kg	は種又は定植前	1回	全面土壌混和。つまみ菜、開引き菜には使用しない。	/		
	キスジノミハムシ ネキリムシ類	ダイアジノン粒剤5	6kg	は種時	1回	全面土壌混和。	/		
生育期	白さび病	ランマンフロアブル	2,000倍	3日前まで	3回以内		/	/	/
	アブラムシ類	モスピラン水溶性	4,000倍	7日前まで	1回		/	/	/
		アグロスリン乳剤	2,000倍	前日まで	2回以内		/	/	/
	コナガ	カスケード乳剤	2,000倍	7日前まで	2回以内	アオムシ・マメハモグリバエにも登録あり。	/	/	/
アフアーム乳剤		2,000倍	3日前まで	2回以内		/	/	/	

# トマトの防除薬剤

## 【害虫防除】

	登録のある害虫							薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）					
	ハダカハエ	アブラムシ類	アザミウマ類	コナジラミ類	ハダニ類	タバコ	ハダクダ		倍率・ 施用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
定植時	マメ	○						ベストガード粒剤	2g/株	定植時	1回	○	○	○	○	○	○	
生育期		○	○					アーデント水和剤	1,000倍	前日まで	3回以内	○	○	○	○	○	○	
				○				アタフロン乳剤	2,000倍	前日まで	3回以内	○	○	○	○	○	○	
		○						アディオ乳剤	3,000倍	前日まで	3回以内	○	○	○	○	○	○	
		マメ						アフーム乳剤	2,000倍	前日まで	5回以内	○	○	○	○	○	○	
		○	○					ウララDF	2,000倍	前日まで	3回以内	○	○	○	○	○	○	
			○					コテツフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	○	○	○	○	○	○	
		マメ						ジェイエース水溶剤	1,000倍	前日まで	3回以内	○	○	○	○	○	○	
		○						スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	2回以内	○	○	○	○	○	○	
		○						ダントツ水溶剤	2,000倍	前日まで	3回以内	○	○	○	○	○	○	
		○						ティアナSC	2,500倍	前日まで	2回以内	○	○	○	○	○	○	

\*マメは、マメハモグリハエ ※ミカンキイロは、ミカンキイロアザミウマ ※タバコは、タバココナジラミ類 ※トマトサビは、トマトサビダニ ※ナミは、ナミハダニ ※オンシツは、オンシツコナジラミ

## 【病害防除】

	登録のある病害							薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）					
	疫病	斑状病	輪紋病	葉かび病	灰色かび病	菌核病	うどんこ病		倍率・ 施用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
育苗期			○					オゾンサイド水和剤80	800倍	は種後2～3葉期	5回以内	○	○	○	○	○	○	
生育期					○			アミスター20フロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	○	○	○	○	○	○	
					○			ゲッター水和剤	1,000倍	前日まで	5回以内	○	○	○	○	○	○	
					○			セイビアフロアブル20	1,000倍	前日まで	3回以内	○	○	○	○	○	○	
			○		○			ダコニール1000	1,000倍	前日まで	4回以内	○	○	○	○	○	○	
		○						テーク水和剤	800倍	前日まで	2回以内	○	○	○	○	○	○	
					○			トリフミン水和剤	3,000倍	前日まで	5回以内	○	○	○	○	○	○	
		○						ビスダイセン水和剤	800倍	前日まで	2回以内	○	○	○	○	○	○	
					○			アフエットフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	○	○	○	○	○	○	
					○			フルピカフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	○	○	○	○	○	○	
		○						プロボース顆粒水和剤	1,000倍	前日まで	3回以内	○	○	○	○	○	○	

# ミニトマトの防除薬剤

## 【害虫防除】

	登録のある害虫							薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）					
	ハダカハエ	アブラムシ類	アザミウマ類	コナジラミ類	トマトサビ	タバコ	ハダクダ		倍率・ 施用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
定植時	マメ	○						ベストガード粒剤	2g/株	定植時	1回	○	○	○	○	○	○	
生育期		○	○					アーデント水和剤	1,000倍	前日まで	2回以内	○	○	○	○	○	○	
				○				アタフロン乳剤	2,000倍	前日まで	3回以内	○	○	○	○	○	○	
		マメ						アフーム乳剤	2,000倍	前日まで	5回以内	○	○	○	○	○	○	
		○	○					ウララDF	2,000倍	前日まで	3回以内	○	○	○	○	○	○	
			○					コテツフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	○	○	○	○	○	○	
			○					スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	2回以内	○	○	○	○	○	○	
		マメ						ジェイエース水溶剤	1,000倍	前日まで	1回	○	○	○	○	○	○	
		○						ダントツ水溶剤	2,000倍	前日まで	3回以内	○	○	○	○	○	○	
		○						ティアナSC	2,500倍	前日まで	2回以内	○	○	○	○	○	○	
		○						ハチハチ乳剤	2,000倍	前日まで	2回以内	○	○	○	○	○	○	

\*マメは、マメハモグリハエ ※タバコは、タバココナジラミ類 ※ミカンキイロは、ミカンキイロアザミウマ

## 【病害防除】

	登録のある病害							薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）					
	疫病	輪紋病	葉かび病	灰色かび病	菌核病	うどんこ病	倍率・ 施用量（10a）		使用時期 収穫前日数	使用回数	1回目		2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	
生育期			○					アフエットフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	○	○	○	○	○	○	
			○					ゲッター水和剤	1,500倍	前日まで	3回以内	○	○	○	○	○	○	
		○	○					ダコニール1000	1,000倍	7日前まで	2回以内	○	○	○	○	○	○	
								トリフミン水和剤	3,000倍	前日まで	5回以内	○	○	○	○	○	○	
								フルピカフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	○	○	○	○	○	○	
		○						ヘルコート水和剤	6,000倍	前日まで	2回以内	○	○	○	○	○	○	

# とうもろこしの防除薬剤

## 【害虫防除】

	登録のある害虫				薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）					
	アブラムシ類	アワノメイガ	アワヨトウ	ネキリムシ類		倍率・ 施用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
生育期	○	○			アディオ乳剤	3,000倍	14日前まで	4回以内	アワノメイガは2,000倍。	○	○	○	○	○	○
	○				アドマイヤーフロアブル	4,000倍	14日前まで	2回以内		○	○	○	○	○	○
		○			エルサン乳剤	1,000倍	14日前まで	4回以内		○	○	○	○	○	○
				○	ダイアジノン粒剤5	6kg	出芽時	1回		○	○	○	○	○	○
		○			トレボン乳剤	1,000倍	14日前まで	2回以内	雑種に上からふりかかると十分散布する。（計2回以内）	○	○	○	○	○	○

# きゅうりの防除薬剤

## 【害虫防除】

	登録のある害虫					薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）					
	アブラムシ類	コナジラミ類	幼虫等	ハダニ類	ウリノメイガ		倍率・ 施用量(10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
定植時	○	○	○			ジェイエース粒剤	3~6kg (1~2g/株)	定植時及び 生育期後 収穫前日	3回以内	定植時、作業散布または灌水散布、生育期株元散布。	✓	✓	✓			
生育期	○	○				アデオ乳剤	3,000倍	前日まで	3回以内	抵抗性害虫出現防止のため運用をさける。	✓	✓	✓			
		○	○			アプロード水和剤	1,000倍	前日まで	3回以内	成虫を直接殺す作用がないので幼虫主体の時期に散布。	✓	✓	✓			
		○				ウララD F	2,000倍	前日まで	3回以内	訪花昆虫に対して影響が少ない。	✓	✓	✓			
			○			コテツフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内		✓	✓	✓			
		○				コロマイト乳剤	1,500倍	前日まで	2回以内		✓	✓	✓			
		○				スタークル顆粒水剤	2,000倍	前日まで	2回以内		✓	✓	✓			
			○			スピノエース顆粒水剤	5,000倍	前日まで	2回以内	ハモグリハ工類にも登録あり。	✓	✓	✓			
					○	フェニックス顆粒水剤	2,000倍	前日まで	3回以内		✓	✓	✓			
			○			ハチハチ乳剤	1,000倍	前日まで	2回以内	うどんこ病・べと病にも登録あり。	✓	✓	✓			
					○	マラン乳剤	2,000倍	前日まで	3回以内		✓	✓	✓			
		○			モスピラン水剤	2,000倍	前日まで	3回以内		✓	✓	✓				

※オンシツはオンシツコナジラミ

## 【病害防除】

	登録のある病害										薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）					
	うどんこ病	べと病	斑状萎凋病	根腐病	炭そ病	灰色かび病	黒枯病	つる枯病	黒星病	疫病		倍率・ 施用量(10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
生育期	○					○					アフエツフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	予防的に散布する。	✓	✓	✓			
	○	○	○								カスミンホドロー	1,000倍	前日まで	5回以内		✓	✓	✓	✓	✓	
											グッター水和剤	1,500倍	前日まで	5回以内	耐性菌出現防止のため運用を避ける。	✓	✓	✓	✓	✓	
											スミブレンド水和剤	1,500倍	前日まで	5回以内		✓	✓	✓	✓	✓	
											ダコニール1000	1,000倍	前日まで	8回以内	予防的に散布する。	✓	✓	✓	✓	✓	
										○	テランK	500倍	前日まで	5回以内		✓	✓	✓	✓	✓	
											ドーシャスフロアブル	1,000倍	前日まで	4回以内	ドーシャスフロアブル、ランマンフロアブルの総使用回数は4回以内とする。	✓	✓	✓	✓	✓	
											トップジンM水和剤	2,000倍	前日まで	5回以内		✓	✓	✓	✓	✓	
											トリフミン水和剤	3,000倍	前日まで	5回以内	耐性菌出現防止のため運用を避ける。	✓	✓	✓	✓	✓	
											ピスタイゼン水和剤	600倍	前日まで	2回以内	予防的に散布する。	✓	✓	✓	✓	✓	
										プリザード水和剤	1,500倍	前日まで	3回以内		✓	✓	✓	✓	✓		
										プロボース顆粒水剤	1,000倍	前日まで	3回以内	予防、治療効果もある。	✓	✓	✓	✓	✓		
										バルコート水和剤	4,000倍	前日まで	5回以内	褐斑病に2,000倍で登録あり。	✓	✓	✓	✓	✓		
										モレスタン水和剤	2,000倍	前日まで	3回以内	予防、治療効果あり。コナジラミ類にも登録あり。	✓	✓	✓	✓	✓		
										ラリー水和剤	4,000倍	前日まで	5回以内	耐性菌出現防止のため運用を避ける。	✓	✓	✓	✓	✓		
										ランマンフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	ドーシャスフロアブル、ランマンフロアブルの総使用回数は4回以内とする。	✓	✓	✓	✓	✓		
										ロブラール500アクア	1,000倍	前日まで	4回以内	予防的に散布する。	✓	✓	✓	✓	✓		

# なすの防除薬剤

## 【害虫防除】

	登録のある害虫							薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）					
	アブラムシ類	ヨトウムシ	コナジラミ類	アザミウマ類	ハダニ類	オオタバコガ	アザミウマ		幼虫等	ハダニ	ウリノメイガ		倍率・ 施用量(10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数	1回目	2回目	3回目
定植時	○							アドマイヤー1粒剤	1~2g/株	定植時	1回	6回又は株元土壌混和、根に直接ふれないように注意。	✓	✓	✓			
生育期	○		○					アデオ乳剤	2,000倍	前日まで	3回以内		✓	✓	✓			
			○					ウララD F	2,000倍	前日まで	3回以内	訪花昆虫に対して影響が少ない。	✓	✓	✓			
								コテツフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	チャノホコリダニにも登録あり。	✓	✓	✓	✓	✓	
								コロマイト乳剤	1,500倍	前日まで	2回以内	水なすに使用しない。炎天下を避け夕方に散布する。	✓	✓	✓	✓	✓	
								ジェイエース水剤	1,000倍	7日前まで	3回以内	アザミウマ類にも登録あり。	✓	✓	✓	✓	✓	
								ダニサハラフロアブル	1,000倍	前日まで	2回以内		✓	✓	✓	✓	✓	
								ダントツ水剤	4,000倍	前日まで	3回以内		✓	✓	✓	✓	✓	
								ディアナSC	2,500倍	前日まで	2回以内		✓	✓	✓	✓	✓	
								ハチハチ乳剤	1,000倍	前日まで	2回以内	チャノホコリダニにも登録あり。水なすに使用しない。	✓	✓	✓	✓	✓	
								フェニックス顆粒水剤	2,000倍	前日まで	3回以内		✓	✓	✓	✓	✓	
							ブレオフロアブル	1,000倍	前日まで	4回以内		✓	✓	✓	✓	✓		
							モスピラン水剤	4,000倍	前日まで	3回以内	コナジラミ類は2,000倍で散布する。	✓	✓	✓	✓	✓		

※オンシツはオンシツコナジラミ

## 【病害防除】

	登録のある病害							薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）					
	菌核病	すすかび病	半身萎凋病	うどんこ病	灰色かび病	黒枯病	褐色腐敗病		倍率・ 施用量(10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
生育期	○							アミスター20フロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	耐性菌出現防止のため運用を避ける。家庭用殺菌剤のニースは使用しない。	✓	✓	✓	✓	✓	
								ダコニール1000	1,000倍	前日まで	4回以内	予防的に散布する。	✓	✓	✓	✓	✓	
								トリフミン水和剤	3,000倍	前日まで	5回以内	耐性菌出現防止のため運用を避ける。	✓	✓	✓	✓	✓	
								プリザード水和剤	1,500倍	前日まで	3回以内		✓	✓	✓	✓	✓	
								バルコート水和剤	3,000倍	前日まで	3回以内	予防的に散布する。	✓	✓	✓	✓	✓	
								ペンレート水和剤	2,000倍	前日まで	3回以内		✓	✓	✓	✓	✓	
									500倍	定植後~ 14日前まで	3回以内	1株当たり200~300ml土壌澆注。	✓	✓	✓	✓	✓	
								ランマンフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内		✓	✓	✓	✓	✓	
								ロブラール500アクア	1,500倍	前日まで	4回以内	予防的に散布する。	✓	✓	✓	✓	✓	

# ぼれいしょの防除暦

## 【病害虫防除】

月	登録のある病害虫	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）							
			倍率・ 施用量(10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目		
4月	植付前	ケラ、ネキリムシ類	ダイアジノン粒剤5	6kg	植付前	1回	全面土壌混和又は作業土壌混和。	✓						
		一年生連根(ツユクサ、カタツリグサ、キク・アブラナ科を除く)	トレファンサイド粒剤25	5kg	植付後~萌芽前	1回	土壌表面散布	✓						
5月	生育期	疫病、夏疫病	ダコニール1000	1,000倍	7日前まで	5回以内		✓	✓	✓	✓	✓	✓	
		アブラムシ類	アクタラ顆粒水剤	3,000倍	14日前まで	3回以内		✓	✓	✓	✓	✓	✓	
6月	生育期	疫病、夏疫病、菌核病	フロンサイド水和剤	2,000倍	14日前まで	4回以内	予防的に散布する	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
		アブラムシ類、オオニジュウヤホシテントウ	アドマイヤー顆粒水剤	15,000倍	14日前まで	2回以内		✓	✓	✓	✓	✓	✓	
		疫病	ランマンフロアブル	1,000倍	7日前まで	4回以内		✓	✓	✓	✓	✓	✓	

# キャベツの防除暦

## 病害虫防除

月	作業	登録のある病害虫	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績(使用月日)				
				倍率・ 施用量(10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
8月	は種前	根こぶ病	ネビジン粉剤	20~30kg	は種又は 定植前	2回	全面土壌混和	/	/			
		根こぶ病	フロンスайд粉剤	30~40kg	定植前	2回		/	/			
	定植時	アブラムシ類、アオムシ、コナガ、ヨトウムシ	ジェイエース粒剤	3~6kg (1~2g/株)	定植時	3回	定植時植穴処理。根に直接ふれないように。	/	/	/		
		ネキリムシ類、コオロギ・ダンゴムシ、ハスモンヨトウ	テナボン5%バイト	3~4kg	14日前まで	3回以内	株元散布	/	/	/		
9月	生育	べと病	ジマンダイセン水和剤	400倍	30日前まで	3回以内		/	/	/		
		オオタバコガ、アオムシ、コナガ、ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、アザミウマ類、ウバハ類	ティアナSC	2,500倍	前日まで	2回以内		/	/			
		ヨトウムシ、アオムシ、コナガ、オオタバコガ、ウバハ類、ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ	プレオフロアブル	1,000倍	7日前まで	2回以内		/	/			
		アブラムシ類、アオムシ、コナガ、ハイマダラノメイガ	ハチハチ乳剤	1,000倍	14日前まで	2回以内		/	/			
10月	収穫	べと病	ダコニール1000	1,000倍	14日前まで	2回以内		/	/			
		軟腐病	スターナ水和剤	1,000倍	7日前まで	3回以内	予防的に散布する	/	/	/		
		オオタバコガ、ヨトウムシ、アオムシ、コナガ、タナギンクワバ、ハスモンヨトウ、アブラムシ類	ハクザップ水和剤	1,000倍	前日まで	5回以内	抵抗性害虫出現防止のため連用を避ける。	/	/	/	/	/

# はくさいの防除暦

## 病害虫防除

月	作業	登録のある病害虫	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績(使用月日)				
				倍率・ 施用量(10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
8月	は種前	根こぶ病	ネビジン粉剤	20~30kg	は種又は 定植前	1回	全面土壌混和	/				
		根こぶ病	フロンスайд粉剤	15~20kg	定植前	1回	作業土壌混和	/				
	定植時	アブラムシ類、アオムシ、コナガ、ヨトウムシ	ジェイエース粒剤	3~6kg (1~2g/株)	定植時	3回	定植時植穴処理。根に直接ふれないように。	/	/	/		
		ネキリムシ類、コオロギ・ダンゴムシ、ハスモンヨトウ ナメクジ類・カタツムリ類	テナボン5%バイト ナメキール	3~4kg 1kg	21日前まで -	3回以内 6回以内	散布は作物の根際地表面に行う。 犬・猫等が食べないように保管する。	/	/	/	/	/
9月	生育	べと病	ジマンダイセン水和剤	600倍	30日前まで	1回以内		/				
		ヨトウムシ、アオムシ、コナガ、オオタバコガ	プレオフロアブル	1,000倍	7日前まで	2回以内		/	/			
		アブラムシ類、アオムシ、コナガ、ハイマダラノメイガ	ハチハチ乳剤	1,000倍	14日前まで	2回以内		/	/			
10月	収穫	べと病	ダコニール1000	1,000倍	7日前まで	2回以内		/	/			
		軟腐病	スターナ水和剤	1,000倍	7日前まで	3回以内	予防的に散布する	/	/	/		
		べと病	ランマンフロアブル	2,000倍	3日前まで	4回以内		/	/	/	/	
		アブラムシ類、ヨトウムシ、アオムシ、コナガ、オオタバコガ、タナギンクワバ、ハスモンヨトウ	ハクザップ水和剤	1,000倍	前日まで	5回以内	抵抗性害虫出現防止のため連用を避ける。	/	/	/	/	/

# だいこんの防除暦

## 病害虫防除

(秋冬取り)

月	作業	登録のある病害虫	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績(使用月日)				
				倍率・ 施用量(10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
8月	は種前	ネグサレセンチュウ、ネコブセンチュウ	ネマトリンエース粒剤	20kg	は種前	1回		/				
		ネキリムシ類	テナボン5%バイト	3~6kg	30日前まで	4回以内	散布は作物の地際地表面に行う。	/	/	/	/	
		アブラムシ類、アオムシ、コナガ	ジェイエース粒剤	3~4kg	は種前	1回	作業散布	/				
9月	生育	ナメクジ類・カタツムリ類	ナメキール	1kg	-	6回以内	犬・猫等が食べないように保管する。	/	/	/	/	/
		アブラムシ類、ヨトウムシ、アオムシ、コナガ	ジェイエース水溶剤	1,500倍	14日前まで	1回		/				
		アブラムシ類、ヨトウムシ、アオムシ、コナガ、ハスモンヨトウ	ハクザップ水和剤	2,000倍	35日前まで	3回以内		/	/	/		
10月	生育	白さび病、ワッカ症	ランマンフロアブル	2,000倍	3日前まで	3回以内	予防的に散布する	/	/	/		
		アオムシ、コナガ	スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	7日前まで	3回以内		/	/	/		
		アブラムシ類	ダントツ水溶剤	2,000倍	7日前まで	2回以内	アブラムシが多い場合	/	/			

# せいさいの防除暦

## 病害虫防除

月	作業	登録のある病害虫	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績(使用月日)					
				倍率・ 施用量(10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
9月	定植前	根こぶ病	ネビジン粉剤	20~30kg	は種又は 定植前	1回	全面土壌混和	/					
		根こぶ病	フロンスайд粉剤	30~40kg	定植前	1回	間引いたものは食さない	/					
		アブラムシ類、キスジノミハムシ	スタークル粒剤	6kg	は種時	1回	播種土壌混和	/					
10月	生育	白根病	ストロビーフロアブル	3,000倍	7日前まで	2回以内	単用散布。予防的に散布する	/	/				
		アブラムシ類	アドマイヤーフロアブル	4,000倍	14日前まで	2回以内		/	/				
		コナガ、アオムシ	アフターム乳剤	2,000倍	7日前まで	3回以内		/	/	/			
11月	生育	白さび病	ランマンフロアブル	2,000倍	3日前まで	3回以内	予防的に散布する	/	/	/			
		アブラムシ類、キスジノミハムシ	モスピラン水溶剤	4,000倍	7日前まで	1回		/					

# 食用ぎくの防除薬剤

## 【 害虫防除 】

	登録のある害虫						薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）			
	アブラムシ類	アザミウマ類	ミカドハチマキ	オカハチマキ	ハダニ類	ヨトウムシ		倍率・施用量(10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目
生育期	○	○			○		アーデント水和剤	1,000倍	発生初期但し 14日前まで	1回	抵抗性害虫出現の防止のため運用は避ける。	/			
	○	○			○		アグロスリン乳剤	1,500倍	3日前まで	1回		/			
	○	○					アドマイヤーフロアブル	4,000倍	7日前まで	2回以内		/	/		
			○	○		ヨトウムシ類	コテツフロアブル	2,000倍	7日前まで	2回以内		/	/		
							コロマイト水和剤	2,000倍	前日まで	1回		/	/		
							スピエース顆粒水和剤	10,000倍	3日前まで	2回以内		/	/		
							アフーム乳剤	2,000倍	14日前まで	1回		/	/		
		○					ハイスロイドEW	3,000倍	7日前まで	2回以内		/	/		
		○	○			○	ベストガード粒剤	2g/株	前日まで	2回以内		/	/		
		○					マラソン乳剤	2,000倍	3日前まで	2回以内		/	/		
	○	○				モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	14日前まで	2回以内	/	/				

## 【 病害防除 】

	登録のある病害					薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）				
	白さび病	褐斑病	うどんこ病	黒斑病			倍率・施用量(10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
生育期	○					サブロール乳剤	1,000倍	14日前まで	5回以内	高温時散布は避ける。予防的に散布する。 薬害注意（高温時・乾燥時） 単用散布。 予防的に散布する。 予防的に散布する。	/	/	/	/	/
	○		○			ジーファイン水和剤	1,000倍	前日まで	—		/	/	/	/	/
	○	○		○		ストロビーフロアブル	3,000倍	3日前まで	2回以内		/	/			
	○	○				ダコニール1000	1,000倍	3.0日前まで	4回以内		/	/	/	/	/
	○					ラリー乳剤	3,000倍	14日前まで	2回以内		/	/			

# えだまめの防除薬剤

## 【 病害虫防除 】

	登録のある病害虫	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）					
			倍率・施用量(10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	
は種前	紫斑病	キヒゲンR-2フロアブル	乾燥種子 1kgに対し 2.0ml (塗沫処理)	は種前	1回	カラス・ハトは豆類(未成熟)で登録あり。	/					
	カラス・ハト											
は種時	ネキリムシ類	カルホス微粒剤F	6kg	定植時	1回	土壌表面散布、土壌混和散布。	/					
	タネバエ			は種時	1回		/					
	アブラムシ類	アドマイヤー1粒剤	3kg	は種時	1回		播溝土壌混和。	/				
生育期	べと病	フェスティバルC水和剤	600倍	前日まで	3回以内	予防的に散布する。	/	/	/			
	菌核病	ロブラール水和剤	1,000倍	30日前まで	3回以内		/	/	/			
	莢汚損病	ゲッター水和剤	1,500倍	7日前まで	3回以内		/	/	/			
	アブラムシ類	マラソン乳剤	2,000倍	7日前まで	3回以内		1,000倍でマメシンクイガにも登録あり。	/	/	/		
		ダントツ水溶剤	2,000倍	3日前まで	3回以内		ハダニ類・アザミウマ類にも登録あり。	/	/	/		
	カメムシ類	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	7日前まで	2回以内		/	/				
	マメシンクイガ	アグロスリン乳剤	2,000倍	7日前まで	3回以内		カメムシ類にも登録あり。	/	/	/		
ハスモンヨトウ	フェニックスフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	/	/	/					

## 野菜除草剤主要適用作物

作物名	ねぎ	ほうれんそう	こまつな	トマト	ミニトマト	とうもろこし	きゅうり	なす	ばいれいしょ	キャベツ	はくさい	だいこん	せいさい	食用ぎく	えだまめ	備考
バスタ液剤	収穫前日 2回以内	収穫7日前 2回以内		収穫前日まで 3回以内			収穫前日まで 3回以内		収穫21日前まで 2回以内		収穫45日前まで 2回以内			収穫14日前まで 2回以内	収穫14日前まで 3回以内	
サンダーボルト										定植7日前 1回						1. 土壌が固くしじり、崩れたりするおそれのある所では使用しない。
ラウンドアップマックスロード	収穫30日前まで 3回以内	耕起前又は は種前まで 3回以内	耕起前まで 1回	耕起前まで 1回	出芽前まで 2回以内	収穫前日まで 2回以内	収穫前日まで 2回以内	収穫前日まで 2回以内	播付前まで 1回	耕起前又は 定植5日前まで 1回	収穫5日前まで 2回以内	耕起前まで 1回	耕起前まで 1回	収穫前日まで 2回以内	収穫前日まで 2回以内	1. サンダーボルトR07・ラウンドアップマックスロード・草枯らしM1は、クワホートを通している生育地での散布使用回数に注意する。 2. 散布後に雑草の生長を抑制しない。
草枯らしM1C	収穫30日前まで 3回以内									耕起又は定植 7日前まで 1回	耕起又はは種 7日前まで 1回				は種7日前まで 1回	1. 農薬の施用は必要ない。 2. 散布後に雑草の地上部を抑制しない。
トレファノサイド粒剤2.5	定植後但し 収穫30日前まで 2回以内			定植前 1回(露地)	定植前 1回(露地)		定植前1回 (露地・移植) は種後1回 (露地・直播)	定植前 1回(露地)	播付後萌芽前 1回	定植前 1回(移植) は種後 1回(直播)					収穫45日前まで 2回	1. 農薬のおそれがあるとき、必ず(露地)と指定する場合は、定植3日前までに使用する。 2. トレファノサイド粒剤2.5は、50℃以上の高温時に散布しない。 3. トレファノサイド粒剤は、第一級が指定された、総散布回数に注意する。
トレファノサイド乳剤			は種後1回 (露地)	定植前 1回(露地)	定植前 1回(露地)		定植前 1回(露地)	定植前 1回(露地)	播付後萌芽前 1回	定植前 1回(移植) は種後 1回(直播)	は種後 1回(露地)	は種後 1回(露地)	は種後 1回(露地)			1. 耕種して使用しない。 2. 雑草発生後は必要がないので発生前に散布する。
ラッソー乳剤		は種後 1回				は種後出芽前 1回			播付14日後まで 1回	定植8日後まで 1回	は種後 1回	は種後 1回				1. 耕種して使用しない。 2. 雑草発生後は必要がないので発生前に散布する。
ゴーゴースオン	定植後10日後まで 1回					は種後出芽前 1回			播付後萌芽前 1回	定植前 1回	定植前 1回			定植前 1回		1. キク科雑草及びツクシクワに効果がある。
ブリグロックスL	は種前又は播付前 収穫3日前まで 3回以内	は種前又は播付前 収穫14日前まで 3回以内	は種前又は播付前 収穫3日前まで 3回以内	は種前又は播付前 収穫14日前まで 3回以内	は種前又は播付前 収穫3日前まで 3回以内	定植後 収穫3日前まで 5回以内	は種前又は播付前 収穫14日前まで 3回以内	は種前又は播付前 収穫3日前まで 3回以内	定植前 1回 収穫前日まで 2回以内	は種前又は播付前 収穫30日前まで 3回以内	は種前又は播付前 収穫30日前まで 3回以内	は種前又は播付前 収穫30日前まで 3回以内	は種前又は播付前 収穫30日前まで 3回以内	は種前又は播付前 収穫30日前まで 3回以内	定植後 収穫14日前まで 4回以内	1. 播種前防除のため、作物への直接散布は控える。
ナブ乳剤	収穫30日前まで 1回	収穫30日前まで 1回	収穫7日前まで 1回	収穫14日前まで 1回					収穫14日前まで 2回以内	収穫30日前まで 1回		収穫7日前まで 1回		収穫14日前まで 1回		1. 雑草発生期イネ科雑草3-5葉期
ロックス	定植後但し 定植14日後まで 1回 (雑草発生期)					は種後 1回			播付後萌芽前 1回						収穫30日前まで 1回	1. ぬかに使用する際、作物にはからさないよう、軽量に散布する。 2. マスシロ、トウモロコシには使用しない。
クレマート乳剤	定植後但し 定植10日後まで 1回 (雑草発生期)						定植前 1回 (雑草発生期)	定植前又は 定植・マルチ前 1回 (雑草発生期)	播付後萌芽前 1回 (雑草発生期)		定植前 1回 (雑草発生期)					1. 雑草発生期イネ科雑草3-5葉期の発生前に使用する。

# 果樹病害虫防除基準

## 総合防除

### 耕種的防除、物理的防除、化学的防除を組み合わせた防除

- 病害虫に侵された葉、枝、果実を取り除き、適切に処分する。
- 夏期管理においても徒長枝や邪魔な枝の剪除に努め、薬剤が十分にかかるようにする。
- 越冬病害虫の密度を下げるために粗皮けずりを行う。清耕栽培か中耕栽培を行い、草生園でも草刈り、除草を徹底する。
- 樹勢が弱まると病害虫に侵されやすくなるので、土づくり肥料や有機質などの適正量の投入により健全な樹勢を保つ。
- 枝や幹に薬剤を十分に散布する。
- 気象条件に合わせた防除を行う。(干ばつや継続的な降雨などの気象条件の時は特に留意する。)
- 散布予定日に降雨が予想される場合は、降雨前に防除を行う。
- 薬剤散布を行う場合、気温25℃以上の時は散布を控える。(散布後急激に温度が上がるのが予想される場合も散布を控える。)
- 薬剤調合時、鉄分を多く含む水は、果実の表面に障害を生じるので使用しない。

## 生物的防除

### 交信かく乱剤（性フェロモン剤）利用による防除

性フェロモンは昆虫が体外に分泌し、性行動を支配している重要な物質です。交信かく乱剤は人工的に合成した性フェロモンを園地内に充満させ、雌雄の交尾を阻害し、次世代の密度を抑制する防除方法です。  
(注：農薬と異なり、直接的な殺虫効果はありません。)

薬剤名	対象作物	設置時期	設置量(10a)	対象害虫							
				ハマキムシ類			シンクイムシ類			モモハモグリガ	コスカシバ
				ミダレカクモンハマキ	リンゴコカクモンハマキ	リンゴモンハマキ	モモシンクイガ	ナシヒメシンクイ	スモモヒメシンクイ		
コンフューザーN	果樹類	4月20日頃	150~200本	(○)	○	○	○	○	○		
コンフューザーR	果樹類(りんご)		100本	○	○	○	○	○			
コンフューザーMM	果樹類(もも)		120本	(○)	○	(○)	○	○		○	
ハマキコンソーN	果樹類	5月20日頃	150本	○	○	○					
スカシバコン	果樹類		50~100本	さくらんぼ、もも、すもも(ブルーン)、うめ、かき等で使用						○	

※ (○) は、害虫登録はない。

※ 総合的に防除が可能なコンフューザーNを基本とする。

### 使用方法

交信かく乱剤の所定本数(コンフューザーN150~200本)を越冬世代の発生前の4月20日頃まで園地に設置する。設置場所は目通りの高さに8割、残り2割を園地の周辺に多めに設置することが望ましい。また、効果を高めるために、団地化をはかる。

### 利用上の留意事項

- ①小面積(1ha以下)では、設置区域外にいる既交尾雌が圃場内に飛び込んで産卵するため効果が劣るので、出来るだけ地域全体で設置する。
- ②性フェロモン成分は空気よりも重いので、傾斜地や起伏の多い場所では傾斜上部の設置を1~2割多くする。
- ③対象病害虫の発生密度が高いと雌雄の遭遇確立が高くなり、交尾阻害効果が期待できなくなる。
- ④風の強い場所で利用する場合は、フェロモンの流亡を防ぐため、防風ネットなどを利用する。
- ⑤対象害虫や対象外害虫が発生した場合には、殺虫剤による補完防除が必要となるため、圃場の害虫発生動向を観察する。
- ⑥交信かく乱剤は経年的に使用することによって、対象害虫の発生密度を低減させる効果がある。

# 紋羽病対策

## 土壌灌注

薬剤名

フロンサイドSC

使用方法

作物名	適用病害虫	使用時期	使用回数	希釈倍数	使用方法
りんご	白紋羽病 (紫紋羽病 りんごのみ)	収穫45日前まで	1回	500倍 または 1,000倍	500倍の場合 1樹当たり 50~100 <sup>リットル</sup> 土壌灌注  1,000倍の場合 1樹当たり 100~200 <sup>リットル</sup> 土壌灌注
なし		収穫30日前まで			
ぶどう		収穫21日前まで			
もも		収穫30日前まで			
さくらんぼ		収穫30日前まで		500倍	

※ 土壌灌注は対象樹だけでなく広範囲に実施した方が効果が高い。

※ 生育期間中でも紋羽病の影響で生育が思わしくない場合は土壌灌注を行う。

## 苗木消毒

植え付け前に、トップジンM水和剤 500倍液に10分間根部を浸漬する。(対象樹種：りんご・もも・なし)

## さくらんぼ(未結実樹)枝幹病害(樹脂細菌病)重点防除対策

※ 近年、樹脂細菌病による枝枯れ・苗木の枯死が増えてきております。定植から成木までの期間は下記により防除を徹底して下さい。

回数	防除時期	対象病害虫	薬剤名・倍数	注意事項	
1	休眠期 (発芽前)	カイガラムシ類 ハダニ類 炭疽病 (樹脂細菌病)	石灰硫黄合剤	10倍	① 定植時発芽していない場合は石灰硫黄合剤 10倍を散布する。
	定植時 (発芽~発芽7日後)		4-4式ボルドー液	-	
2	4月中旬 ~5月上旬	灰星病 (樹脂細菌病)	4-4式ボルドー液	-	① 樹脂の漏出が見られたら、褐変部位を削り取っ てトップジンMペーストを塗布する。(3回以内) ② ハマキムシ類の発生が心配される場合は、バイ オマックスDF2,000倍を散布する。
3	6月10日頃	褐色せん孔病 (炭疽病)	ICボルドー66D または ドキリンフロアブル	40倍 800倍	① 害虫防除はさくらんぼの防除基準を参考に行う。
4	7月10日頃	褐色せん孔病 炭疽病 ハダニ類	トレノックスフロアブル スターマイトフロアブル	500倍 2,000倍	
5	8月10日頃	褐色せん孔病 炭疽病	ICボルドー66D または トレノックスフロアブル	40倍 500倍	
6	9月上旬 ~9月中旬	褐色せん孔病 (炭疽病) (樹脂細菌病)	ICボルドー66D	40倍	
			4-4式ボルドー液	-	
7	落葉後 (11月上旬 ~12月上旬)	(炭疽病) (樹脂細菌病)	石灰硫黄合剤 ICボルドー66D 4-4式ボルドー液 のいずれか	10倍 40倍 -	① 秋期に定植を行う場合は、定植後直ちにこれら の薬剤のいずれかを散布する。

※ 新規に定植を行う場合は、排水対策を徹底し、防風ネットを設置する。

# 除 草 剤 使 用 基 準

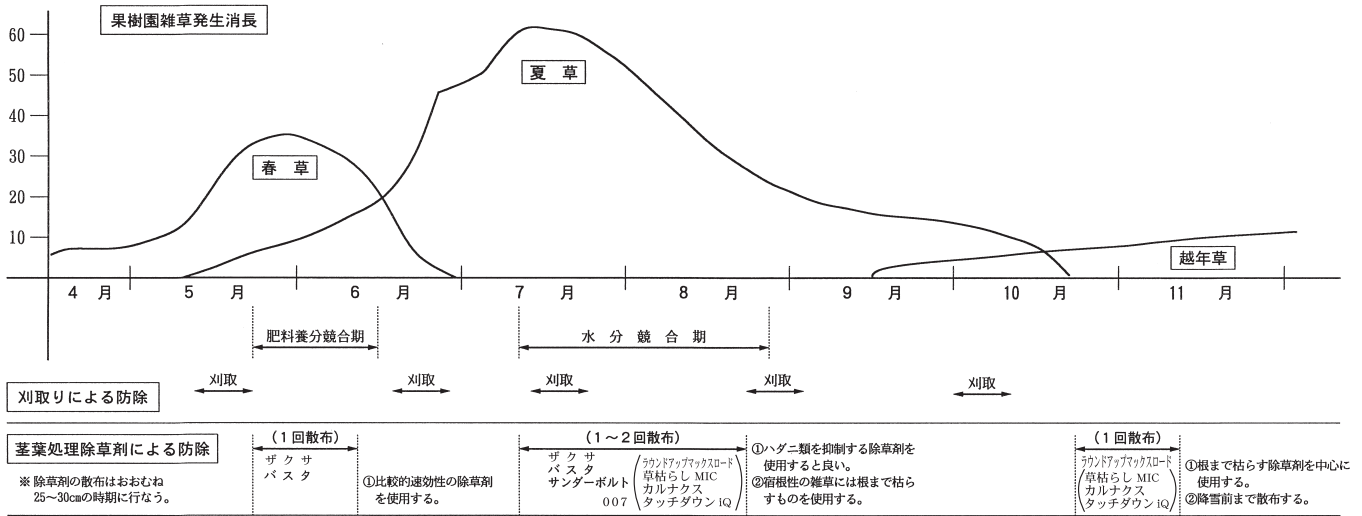
## 1 果樹園に除草剤を使用する場合の一般的留意事項

- ① 果樹は一度葉害にあうと回復するのに数年もかかることがあるので、使用にあたっては十分注意する必要がある。
- ② 散布する水量は10a当たり150ℓを標準とし、草丈の大きいときは、水量を増す必要がある。普通の農薬と違い希釈倍率がなく、単位面積当たりに投下される薬量で示されるので、水の量を多少かえてもよいが、散布むらのないように注意する。
- ③ 散布はなるべく晴天無風の日にに行ない、噴霧する霧を粗くして、吹き上げたり、風に飛ばされたりして、果樹の枝葉（とくに下枝）にかからないようにする。できるだけ除草剤専用噴口を使用する。
- ④ 草丈が30 cm以上になると、効果が劣るので時期を失しないように使用する。
- ⑤ 展着剤加用の場合は、除草剤専用のものを使用する。

※ **ダニ剤散布予定日の7日前に除草剤を使用する。**

## 果 樹 園 の 雑 草 管 理 ( 基 本 )

### 2 果樹園での除草剤使用時期



### 3 果樹園用主要除草剤使用方法

除草剤名	適応樹種	標準水量	10a当たりの使用薬量	効果の発現	効果の持続期間	使用時期	備 考
タッチダウンIQ	果樹類	25~100%	1年生 250~500cc 多年生 500~1,000cc (スギナ 1.5~2.0%)	3~5日後 7~10日後	60日	夏草生育期 秋期越年生雑草	1. 展着剤は加用しない。 2. 少量(25%)散布の時は専用ノズルを使用する。
サンダーボルト007		100%	400~600cc	2~5日後	60~70日	春草・夏草生育期	1. 展着剤は加用せずむらなく散布する。 2. スペリヒユ(ひょう)・ギシギシに効果が高い。
草枯らしMIC		50~100%	1年生 250~500cc 多年生 500~1,000cc	7~14日後	60~70日	秋期越年生雑草	1. ラウンドアップと同成分
カルナクス		50~100% (25~50%)	1年生 200~500cc 多年生 500~1,000cc (スギナ 1.5~2.0%)	3~5日後	60~70日	夏草生育期 秋期越年生雑草	1. 展着剤は加用しない。 2. 少量(25%)散布の時は専用ノズルを使用する。 3. 25倍で処理すると、スギナにも効果が高い。 4. 多年生強毒雑草には高濃度でスポット処理も可能。
ラウンドアップマックスロード		100~150%	1年生 300~500cc 多年生 500~1,000cc	2~5日後	40~50日	春草・夏草生育期	
ザクサ液剤		100~150%	1年生 300~500cc 多年生 500~1,000cc	2~5日後	40~50日	春草・夏草生育期	
バスタ液剤	りんご、ぶどう、もも、なし、かき、さくらんぼ、くり、小豆科果類、ネクタリン、ブルーベリー	100~150%	1年生 300~500cc 多年生 500~1,000cc	2~5日後	40~50日	春草・夏草生育期	

### 4 除草剤主要適用作物

	水稲 畦畔	ぶどう	さくらんぼ	うめ	りんご	なし	かき	もも	すもも	くり	(樹花木類)	(非農耕地等)
タッチダウンIQ	14日前まで 2回以内	5日前 3回以内	5日前 3回以内	5日前 3回以内	5日前 3回以内	5日前 3回以内	5日前 3回以内	5日前 3回以内	5日前 3回以内	5日前 3回以内	雑草生育期 4回以内	雑草生育期 3回以内
サンダーボルト007	14日前まで 2回以内	7日前まで 3回以内	7日前まで 3回以内	7日前まで 3回以内	7日前まで 3回以内	7日前まで 3回以内	7日前まで 3回以内	7日前まで 3回以内	7日前まで 3回以内	7日前まで 3回以内	—	雑草生育期 3回以内
草枯らしMIC	14日前まで 2回以内	7日前まで 3回以内	7日前まで 3回以内	7日前まで 3回以内	7日前まで 3回以内	7日前まで 3回以内	7日前まで 3回以内	7日前まで 3回以内	7日前まで 3回以内	7日前まで 3回以内	雑草生育期 4回以内	雑草生育期 3回以内
カルナクス	14日前まで 2回以内	7日前まで 3回以内	7日前まで 3回以内	7日前まで 3回以内	7日前まで 3回以内	7日前まで 3回以内	7日前まで 3回以内	7日前まで 3回以内	7日前まで 3回以内	7日前まで 3回以内	雑草生育期 4回以内	雑草生育期 3回以内
ラウンドアップマックスロード	収穫前日まで 2回以内	7日前まで 3回以内	7日前まで 3回以内	7日前まで 3回以内	7日前まで 3回以内	7日前まで 3回以内	7日前まで 3回以内	7日前まで 3回以内	7日前まで 3回以内	7日前まで 3回以内	雑草生育期 4回以内	雑草生育期 3回以内
ザクサ液剤	7日前まで 2回以内	前日まで 3回以内	前日まで 3回以内	前日まで 3回以内	21日前まで 3回以内	前日まで 3回以内	前日まで 3回以内	前日まで 3回以内	前日まで 3回以内	30日前まで 3回以内	雑草生育期 3回以内	雑草生育期 3回以内
バスタ液剤	7日前まで 2回以内	前日まで 3回以内	前日まで 3回以内	前日まで 3回以内	21日前まで 3回以内	前日まで 3回以内	前日まで 3回以内	前日まで 3回以内	前日まで 3回以内	30日前まで 3回以内	雑草生育期 3回以内	雑草生育期 3回以内

※ グリホサートを含む剤(ラウンドアップマックスロード、タッチダウンIQ、サンダーボルト007、草枯らしMIC、カルナクス等)は同一成分の為、総使用回数に注意する。

※ グリホシネートを含む剤(ザクサ液剤、バスタ液剤等)は同一成分の為、総使用回数に注意する。

※ 雑草生育期の草丈は30cm以内(作物によっては20cm以内)まで処理を行う。

# 系 統 別 農 薬 一 覧

## ○ 殺 虫 剤

系 統 名		薬 剤 名
合成ピレスロイド系 (注意: 魚類に対する毒性が極めて強い)		バイスロイド、スカウト、テルスター、サイハロン、アーデント、トレボン、アディオオン、ロディー、MR、ジョーカー、マブリック、アグロスリン、(パーマチオン、ハクサップ)
有機リン系		スプラサイド、スミチオン、ダーズバン、ダイアジノン、サイアノックス、ジェイエース、エルサン、オルトラン、ジメエート、ダイシストン、ネキリトン、バイジット、マラソン
ネオニコチノイド系		バリアード、モスピラン、ダントツ、スタークル、アクタラ、アドマイヤー、アルバリン ベストガード
カーバメート系		マイクロデナボン、オリオン、オンコル、ガゼット、デナボン、ナック、バツサ、ラーベリン、ランネット
ジアミド系		フェニックス、サムコル、(プレバゾン、フェルテラ)
IGR系	キチン合成阻害	ノーモルト、アプロード、アタブロン、カスケード、デミリン、マッチ
	脱皮ホルモン	ファルコン、マトリック、ロムダン
BT系	生菌	バイオマックス、ファイブスター、デルフィン、エスマルク、チューリサイド、チューンアップ
	死菌	トアロー
吸汁阻害剤		ウララ、チェス

## ○ 殺 菌 剤 (主として糸状菌用)

系 統 名	薬 剤 名	予防・治療別
EBI (エルゴステロール生合成阻害)	アンビル、インダー、オンリーワン、サンリット、スコア、オーシャイン、トリフミン、パイレトシ、ヘルシード、スポルタック、テクリード、マネージ、ルビゲン	予防・治療剤
ストロビルリン系	アミスター、ストロビー、ナリア、フリント、オリブライト	予防・治療剤
ジカルボキシニド系	ロブラール、スミレックス	予防・治療剤
ベンゾイミダゾール系	ベンレート、トップジンM	予防・治療剤
有機銅剤	オキシドール、キノドール、ドキリン、(オキシラン)	予防剤
微生物剤	エコホープ、セル苗元気、バイオキーパー、バイオトラスト、バクテローズ、ボトキラー、マルカライト、モミゲンキ	予防剤
抗生物質	アグレプト、マイコシールド	予防・治療剤

## 殺 ダ ニ 剤 の 登 録 一 覧 表

(2012年用)

JA全農山形 JAてんどう  
2011年12月作成

薬 剤 名	ナミハダニ		リンゴハダニ		感受性の低下実績	オオウツハダニ	キナノキコウジニ	サビダニ	ダニ・通・運用	りんご	りんごとうもろこし	も	ぶどう	なし	きゅうり	トマト	なす	すいか	いちご	メロン	かき	きゅうり	特 性 及 び 注 意 事 項	
	卵	幼虫	成虫	卵																				幼虫
ダニサラハワフロアブル	○	○	○	○	○	○	○	○	×	1,000	1,000	1,000	-	1,000	1,000	-	1,000	1,000	1,000	1,000	-	1,000	1,000	・ホドロー液との混用は避け、近接散布は前日14日以上開ける。 ・ハダニ類の全ての生育ステージに対して効果を示し、特に幼虫から若虫に対して効果が高い。 ・実害の発生抑制効果に期待できる。 ・アリエティック水和剤、カルシウム剤と混用する場合、ダニサラハワフロアブルを先に溶かす。 ・小粒糖漿類、花き類・観葉植物で登録あり。 ・スターマイトフロアブルを使用した場合、抵抗性出現防止のためダニサラハワフロアブルは使用しない。
スターマイトフロアブル	○	○	○	○	○	○	○	○	×	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	-	-	2,000	2,000	2,000	2,000	-	2,000	-	・ダニサラハワフロアブルを使用した場合、抵抗性出現防止のためスターマイトフロアブルは使用しない。 ・ホドロー液との混用及び14日以内の近接散布は効果が劣るので避ける。 ・ハダニ類の全ての生育ステージ(卵-成虫まで)に広く効果が高い。 ・有機糖漿の洋なしに使用する場合、実害の発生が目立つおそれがあるので、酸かけ前の散布はしない。 ・アフリック水和剤、アリエティック水和剤と混用する場合、スターマイトフロアブルを先に溶かす。 ・有用菌類(ミミズ、マルハナチガサ、マコバサ)及びアフリック水和剤の活性に対する影響が少ない。 ・小粒糖漿類で登録あり。
ダニゲッターフロアブル	○	○	△	○	○	△	○	○	×	2,000	2,000	2,000	-	2,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・ハダニ類の全ての生育ステージに効果があるが、特に卵・幼虫に対する効果が高く、残効性が高い。 ・速効的だが、成虫には不妊作用を示す。 ・ホドロー液との混用及び14日以内の近接散布は効果が劣るので避ける。 ・新種特許の日本なし(二十世紀を離く)に使用する場合、以下の事項に注意する。 (1) 卵・若虫・若成虫には新種特許を生じる恐れがあるのを避ける。 (2) 有線リン剤との同時散布及び10日以内の近接散布は新種特許を生じる恐れがあるので避ける。 ・おとうに使用する場合は、新種特許期間に注意を生じる恐れがあるので、葉の硬化を得て使用する。 ・キャベツ、はくさい、きゅうり、なす、はちまきに対して注意を生じる恐れがあるので、付託にある場合からないように注意すること。 ・開花前の散開に本剤がかかった場合、不妊などの被害を生じる恐れがあるのでからないように注意する。 ・小粒糖漿類で登録あり。
ハロックスフロアブル	○	○	×	○	○	×	○	○	×	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	-	2,000	2,000	2,000	2,000	-	2,000	2,000	・成虫に対する活性はないが、卵・幼虫・若虫の各ステージに活性が高く、残効性がある。 ・ホドロー液散布14日前まで使用し、ホドロー液散布後は使用しない。 ・すもも、花き類・観葉植物で登録あり。	
マイトコーネフロアブル	○	○	△	○	○	○	○	○	×	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	-	・ホドロー液との混用は避け、近接散布は前日14日以上開ける。 ・ミツバチ・蜜おびかアフリック等の天敵に対する影響が少ない。 ・小粒糖漿類、ミミズトマ、食用はおすきにも登録あり。
コロマイト水和剤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2,000	-	-	2,000	2,000	2,000	-	2,000	2,000	2,000	2,000	-	2,000	2,000	・主に長期毒性があるので、農薬にからないように注意すること。 ・ハダニは、葉の硬化のため安定性が確認された薬剤のみ適用する。 ・乳剤は、汎用性農薬以外および葉面散布剤は適用しない。 ・乳剤はマトのコンタクト剤、マトサビダニ、ハモリハダニに登録。 ・ホドロー液散布後(1,000倍)にも登録あり。 ・乳剤はミミズトマ、食用はおすきにも登録あり。
コロマイト乳剤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1,000	1,000	1,000	-	1,000	1,000	1,500	1,500	1,000	-	1,000	-	1,500	-	・毒性があるので、農薬周辺では撒かないように注意する。 ・ハダニ・ダニ・コウジ・アフリック等の天敵は薬剤の恐れがあるので使用不可。 ・ホドロー液散布後(1,000倍)にも登録あり。 ・スイカではミミズトマフロアブルで登録あり。 ・花き類・観葉植物、ミミズトマ、食用はおすきにも登録あり。 ・食用は(2,000倍)にも登録あり。
コテツフロアブル	○	○	○	×	○	×	○	○	×	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	-	2,000	2,000	・毒性があるので、農薬周辺では撒かないように注意する。 ・ダニ・コウジ・アフリック等の天敵は薬剤の恐れがあるので使用不可。 ・ホドロー液散布後(1,000倍)にも登録あり。 ・スイカではミミズトマフロアブルで登録あり。 ・花き類・観葉植物、ミミズトマ、食用はおすきにも登録あり。 ・食用は(2,000倍)にも登録あり。	
サンマイト水和剤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	-	-	-	-	-	-	1,000	-	・原液を皮膚や目に直接付着しないようにする。(刺激が強い) ・ダニ・コウジ・アフリック等の天敵は薬剤の恐れがあるので使用不可。 ・フロアブル剤は、トマ、ミミズトマ、食用はすもものコンタクト剤に登録あり。 ・他に水稲期はすももに、フロアブル剤は付託に登録あり。 ・フロアブルは食用は(1,000倍)にも登録あり。	
サンマイトフロアブル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	1,000	1,500	-	1,000	1,000	1,000	-	1,000	-	・原液を皮膚や目に直接付着しないようにする。(刺激が強い) ・サンマイト・ピコニカは交叉抵抗性を示すので混用は避ける。
ダニトフロアブル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	-	2,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	・原液を皮膚や目に直接付着しないようにする。(刺激が強い) ・サンマイト・ピコニカは交叉抵抗性を示すので混用は避ける。
カネマイトフロアブル	○	○	○	○	○	○	○	○	×	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	-	1,000	1,000	1,000	1,000	-	1,000	-	・アリエティックと混用する場合はカネマイトフロアブルを先に希釈し混用する。 ・ホドロー液との混用は避け、近接散布は前日14日以上開ける。 ・ネクスター、すもも、うり根(食用)で登録あり。

※各薬剤、ホドロー液と混用して使用すると効果が低下したり、残効期間が短くなるようなので留意する。  
※殺ダニ剤は抵抗性回避のため各薬剤、年1回の使用とする。

# 平成24年 さくらんぼ病害虫防除暦



防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100%)	農薬適正使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (メモ)
発芽前まで	カイガラムシ類 ハダニ類	① 水 (86.7%)	—	350%	(1) マシン油等を使用する時は、低温時の使用をさけ好天の時に使用する。 (2) 灰星病の発生を防止するため休眠中に全面耕うんし、越冬菌をすき込みとともに地表面の乾燥をはかる。 (3) 灰星病防除のため樹上のミヤマキムシ類を除去し埋没する。 (4) カイガラムシ類の発生が多い園地は、太枝にブラシかけを行い、天気の良い温暖な日を選び散布する。	/	/
		② スプレーオイル 30倍 (3.3%)	発芽前まで				
		③ 石灰硫黄合剤 10倍 (1.0%)	発芽前まで				
大玉生産と摘果作業の労力削減のため3月中旬～4月上旬に摘芽を行う。							
灰星病 (開花1日前)	灰星病 褐色せん孔病 炭疽病	① ハイテンパワー(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	450%	(1) 灰星病のキノコを防止するために開花直前両あがりに消石灰を10a当たり20～30kgずつ3回に分けて散布する。 (2) 炭疽病の多い園地ではビスダイセン水和剤にかえてICボルドー66D 40倍を散布する。 (3) 訪花昆虫の活動前(15℃になる前)にできるだけ防除を終了する。 (4) ハマキムシ類の発生が多い園地では、ハイオマックスDF 2000倍(前日まで)を加用散布する。	/	/
		② ビスダイセン水和剤 800倍 (125g)	30日前まで 2回以内				
開花期間中に降雨が続くような場合はナリアWDG 2,000倍(収穫前日まで3回以内)を散布する。 /							
前年幼果菌核病の発生が多かった園地では、ナリアWDG 2,000倍(収穫前日まで3回以内)を散布する。(ただし、連用はしない) /							
重 点 防 除	開花3日後	① ハイテンパワー(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500%	(1) 散布時期が遅れない様に注意する。遅れれば効果が劣るので、満開(80%開花時)3日後まで必ず散布する。 (2) 樹脂の漏れが見られたら、傷変部位を削り取ってキズの癒合促進のため、トップジンMペーストを塗布する。(3回以内) (3) 訪花昆虫の活動前(15℃になる前)にできるだけ防除を終了する。	/	/
		② オートサイド水和剤80 800倍 (125g)	14日前まで 5回以内				
		③ サンリット水和剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内				
		④ フェニックスフロアブル 4,000倍 (25ml)	前日まで 2回以内				
ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護する為、りんごの花が終わるまで殺虫剤(BT剤、IGR剤、モスピラン、フェニックス、サムコルを除く)散布は行わない。							
5月中旬 (満開15日後)	灰星病 オウトウショウジョウバエ カメムシ類	① ハイテンパワー(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500%	(1) 灰星病、ナミハダニの発生を防止するため、この時期以降菌の単刈を徹底する。 (2) ハマキムシ類の発生が多い園地では、ハイオマックスDF 2000倍(前日まで)を加用散布する。	/	/
		② ベルクート水和剤 1,000倍 (100g)	7日前まで 3回以内				
		③ モスピラン水溶剤 4,000倍 (25g)	3日前まで 1回				
フェロモン剤設置時期(5月20日頃)【コスカシ対策はスカシバコン 50～100本/10a、ハマキムシ類対策はハマキコン-N 150本/10a】 /							
ハダニ対策 ダニ剤散布7日前に除草剤を使用するか、ダニ剤散布4日前に草刈を実施する。							
前回散布10日後 (5月下旬)	灰星病 ショウジョウバエ類 オウトウハマダラミバエ ハダニ類	① スコア顆粒水和剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内	500%	(1) 早生種の収穫7日前までに散布する。 (2) 展着剤はこの回以降収穫が終わるまで使用しない。 (3) ダニ剤を散布する場合は、適格的除時より薬液を多く準備し、散布ムラの無いように十分散布する。	/	/
		② バイスロイドEW 4,000倍 (25ml)	7日前まで 2回以内				
		③ カネマイトフロアブル 1,000倍 (100ml)	7日前まで 1回				
<p><b>ショウジョウバエ耕種の対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 摘果が遅れた場合には、摘果した実果を適正に処理する。</li> <li>○ 果実は、適期収穫を行い、過熟果にならないうちに収穫を終了する。</li> <li>○ 病虫害果・キズ果・過熟果等のもぎのこしは、きれいに収穫し処分(土中に埋める)する。</li> </ul>							
6月上旬	褐色せん孔病・黒斑病 灰星病・炭疽病 オウトウショウジョウバエ カメムシ類	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	500%	※この時期のショウジョウバエの発生に注意する。	/	/
		② スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで 2回以内				
6月中旬	灰星病・炭疽病 褐色せん孔病・黒斑病 ショウジョウバエ類 ハダニ類	① ナリアWDG 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内	500%	(1) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチェ)ぶどう(ピオーネ、藤稔、サニール・ジュ、シャルネ)に薬害があるので注意する。	/	/
		② テルスターフロアブル 4,000倍 (25ml)	前日まで 2回以内				
6月下旬	灰星病 オウトウショウジョウバエ カメムシ類	① インダーフロアブル 5,000倍 (20ml)	前日まで 2回以内	500%	ハダニの発生が見られる場合は、スターマイトフロアブル2000倍(前日まで1回)をくり上げ散布する。	/	/
		② ダントツ水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで 2回以内				
7月上旬 (晩生種)	灰星病・炭疽病 褐色せん孔病 ショウジョウバエ類 ハダニ類	① アミスター10フロアブル 1,000倍 (100ml)	前日まで 3回以内	500%	(1) アミスター10フロアブルはりんごに薬害があるので注意する。 <b>晩生種等の収穫が終わらない園地のみ散布する。</b>	/	/
		② テルスターフロアブル 4,000倍 (25ml)	前日まで 2回以内				
収穫直後	褐色せん孔病 炭疽病 アブラムシ類 ハマキムシ類 ウメシロカイガラムシ	① トレノックスフロアブル 500倍 (200ml)	収穫終了～落葉期まで 3回以内	500%	(1) ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラの無いように十分散布する。 (2) すでに、スターマイトフロアブルを使用した場合は、今回は散布しない。	/	/
		② ダイアジノン水和剤34 1,000倍 (100g)	14日前まで 2回以内				
		③ スターマイトフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 1回				
7月下旬	せん孔病	① ハイテンパワー(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500%		/	/
		② オキシラン水和剤 600倍 (166g)	収穫終了～落葉期まで 3回以内				
8月上旬	褐色せん孔病 炭疽病 カイガラムシ類幼虫	① トレノックスフロアブル 500倍 (200ml)	収穫終了～落葉期まで 3回以内	500%	(1) 褐色せん孔病の多い場合はICボルドー66D40倍を単用散布する。 (2) ハダニの発生が多い園地では、コロマイト乳剤1000倍を加用散布する。(7日前まで1回、展着剤は加用しない) <b>※カイガラムシ重点防除時期(第2回防除期)カイガラムシ類の発生が多い園地では今回散布7日後にスプラウド水和剤(7日前まで3回以内)</b>	/	/
		② アプロードフロアブル 1,000倍 (100ml)	30日前まで 2回以内				
9月上中旬	ハマキムシ類 アブラムシ類	(りんご・西洋なしなどには絶対に飛散しないように注意する。)		500%	(1) 枝の枯死や樹脂の漏れが多い園地では、9月上旬から中旬にICボルドー66D40倍を散布する。さらに、落葉後(11月上旬から12月上旬)に石灰硫黄合剤1000倍又は、ICボルドー66D40倍を散布する。 (2) 枝剪し十分散布する。 (3) 灰星病の発生が多い園地では落葉後清拭し、越冬菌の密度を下げる。 (4) スミチオン乳剤はアブラナ科野菜(ハクサイ、青菜、ダイコン)などに薬害があるので注意する。	/	/
		① スミチオン乳剤 1,000倍 (100ml)	21日前まで 2回以内				
休眠期	コスカシバ	① ラビキラー乳剤 200倍 (500ml)	落葉後～発芽前 1回	350%	(1) ラビキラー乳剤はアブラナ科野菜(ハクサイ、青菜、ダイコン)などに薬害があるので注意する。	/	/

**バイスロイドEWは、さくらんぼのみ4,000倍登録  
倍数注意!!**



# 平成24年 もも病害虫防除暦



防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍率 (薬量/水100ℓ)	農業適正使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (×モ)
大玉生産と摘果作業の労力削減の為、開花前までに摘らいを行う。 せん孔細菌病に侵された枝の剪除に努める。							
発芽前まで (平年3月25日頃)	ハダニ類 (縮葉病)	① 水 (90%) ② 石灰硫黄合剤 10倍 (10%)	発芽前まで —	350%	(1) 縮葉病防除の最も重要な時期であるので必ず散布する。(石灰硫黄合剤は7倍で縮葉病に登録あり) (2) 前年度の灰星病の被害果及び被害枝は徹底して除去する。 (3) 前年カイガラムシ類の発生が見られた圃地では、スプレーオイル50倍を加用散布する。	／	／
<b>フェロモン剤設置時期(4月20日頃)【ハマキムシ・シンクイムシ・ハモグリガ対策はコンフューザーMM120本/10a】【ハマキムシ・シンクイムシ対策はコンフューザーN150~200本/10a】</b> /							
開花前	せん孔細菌病	① ICボルドー412 30倍 (3.3kg)	—	350%	(1) 開花始め以降は葉害が発生するので散布しない。	／	／
枝折病が例年みられる場合は、トップジンM水和剤 1,000倍(前日まで6回以内)を散布する。 /							
せ ん 孔 細菌 病 (80%落花時)	灰星病	① ハイテンパワー(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	350%	(1) スピードスプレーヤーで防除する場合、風量が強いと葉が傷み病気にかなり易くなるので、葉が傷まない程度に風量を落として防除する。(生育期間)	／	／
	黒星病	② アンピフロアブル 1,000倍 (100ml)	前日まで 3回以内				
	せん孔細菌病	③ アグレト水和剤 1,000倍 (100g)	60日前まで 2回以内				
	ハマキムシ類・ケムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類	④ フェニックスフロアブル 4,000倍 (25ml)	前日まで 2回以内				
<b>ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護する為、りんごの花が終わるまで殺虫剤(BT剤、IGR剤、モスピラン、フェニックス、サムコルを除く)散布は行わない。</b>							
孔 細菌 病	灰星病・黒星病 せん孔細菌病	① トレノックスフロアブル 500倍 (200ml)	7日前まで 5回以内	400%	(1) ハマキムシ類の発生が見られる圃地では、バイオマックスDF2000倍(前日まで)を単用散布する。	／	／
	せん孔細菌病	② アグレト水和剤 1,000倍 (100g)	60日前まで 2回以内				
	アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類	③ モスピラン水溶剤 4,000倍 (25g)	前日まで 3回以内				
<b>フェロモン剤設置時期(5月20日頃)【コスカシ対策はスカシバコン50~100本/10a】【ハマキムシ対策はハマキコンN150本/10a(すでにコンフューザーMM、Nを設置した場合は必要ない)】</b> /							
病 点	せん孔細菌病 灰星病	① デランフロアブル 600倍 (166ml)	7日前まで 4回以内	400%	(1) この回以降、灰星病が例年見られる場合はダコニール1000、1000倍を散布する。(前日まで6回以内)	／	／
	シンクイムシ類 ハマキムシ類 アブラムシ類	② ダイアジノン水和剤34 1,000倍 (100g)	前日まで 4回以内				
	黒星病 灰星病 せん孔細菌病	① トレノックスフロアブル 500倍 (200ml)	7日前まで 5回以内				
重 点 防 除	せん孔細菌病 アブラムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ	② マイコシールド 2,000倍 (50g)	21日前まで 5回以内	400%	(1) 梅雨期以降降雨が続く場合は、アピオン-E(展着剤)1000倍を加用する。	／	／
	アブラムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ	③ バリアード顆粒水和剤 4,000倍 (25g)	前日まで 3回以内				
	<b>ハダニ対策</b> ダニ剤散布7日前に除草剤を使用するか、ダニ剤散布4日前に草刈を実施する。						
除 病 重 点 防 除	灰星病・黒星病	① ナリアWDG 2,000倍 (50g)	前日まで 2回以内	400%	(1) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチェ)ぶどう(ヒオオネ、藤稜、サニール・ジュ、シャルドネ)に葉害があるので注意する。 (2) この回以降せん孔細菌病が見られる圃地では、マイコシールド2000倍を単用散布する。(21日前まで5回以内、展着剤加用) (3) ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラの無いように十分散布する。 (4) アブラムシ類の多い圃地では、ウララDF4000倍を散布する。(14日前まで2回以内)	／	／
	モモハモグリガ シンクイムシ類	② サムコルフロアブル10 5,000倍 (20ml)	前日まで 2回以内				
	ハダニ類	③ スターマイトフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 1回				
星 病 重 点 防 除	黒星病 灰星病 シンクイムシ類 ハマキムシ類	① インダーフロアブル 5,000倍 (20ml)	前日まで 4回以内	400%	(1) この回以降ハダニ類の発生が見られる場合はコロマイト乳剤1000倍を散布する。(7日前まで1回) (2) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチェ)ぶどう(ヒオオネ、藤稜、サニール・ジュ、シャルドネ)に葉害があるので注意する。 (3) 早生種の収穫間近のため早生種には使用しない。	／	／
	ホモフシス腐敗病 アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類	② ダズバンドF 3,000倍 (33g)	14日前まで 5回以内				
	アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類	② バイスロイドEW 2,000倍 (50ml)	7日前まで 3回以内				
重 点 防 除	灰星病 ホモフシス腐敗病 アブラムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	400%	収穫前日数に注意!!	／	／
	アブラムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ	② バリアード顆粒水和剤 4,000倍 (25g)	前日まで 3回以内				
	収穫を終了した圃地でも、シンクイムシ類・ハモグリガの防除対策として、アーデント水和剤1,000倍(前日まで3回以内)を必ず散布する。						
防 除 重 点	灰星病 ホモフシス腐敗病 うどんこ病 アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類 ハダニ類	① ベルクート水和剤 1,500倍 (66g)	前日まで 3回以内	400%	(1) アーデント水和剤は、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 (2) 防除効果を高めるため、降雨前に散布する。 (3) 降雨が続く場合は、アンピフロアブル1000倍を単用散布する。(前日まで3回以内)	／	／
	アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類 ハダニ類	② アーデント水和剤 1,000倍 (100g)	前日まで 3回以内				
防 除 重 点	灰星病	① ロブラール水和剤 1,500倍 (66g)	前日まで 3回以内	400%	(1) 防除効果を高めるため降雨前に散布する。	／	／
晩生種で収穫期間中の品種には、インダーフロアブル5000倍(前日まで4回以内)、ストロビドドライブフロアブル2000倍(前日まで3回以内)、サンリット水和剤2000倍(前日まで3回以内)のいずれかをローテーションで散布し、殺虫剤としてスカウトフロアブル2000倍(前日まで5回以内)を加用散布する。							
せん孔細菌病 重 点 防 除	せん孔細菌病 ハマキムシ類 モモシンクイガ モモハモグリガ	① ICボルドー412 30倍 (3.3kg)	—	400%	(1) スミチオン乳剤はアブラナ科野菜(ハクサイ、青菜、ダイコン)などに葉害があるので注意する。 (2) スミチオン乳剤を散布する場合は、りんご・西洋なしなどには絶対に飛散しないよう注意する。	／	／
	せん孔細菌病	② スミチオン乳剤 1,000倍 (100ml)	3日前まで 6回以内				
せん孔細菌病	せん孔細菌病	① ICボルドー412 30倍 (3.3kg)	—	400%	／	／	／
休眠期	コスカシバ	① ラビキラー乳剤 200倍 (500ml)	落葉後~発芽前 1回	350%	(1) ラビキラー乳剤はアブラナ科野菜(ハクサイ、青菜、ダイコン)などに葉害があるので注意する。	／	／

# 平成24年 西洋なし病害虫防除暦



防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍率 (薬量/水100㍓)	農薬適正使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (マモ)
* 胴枯病の発生が多い圃地は必ず石灰硫黄合剤10倍を散布する							
発芽前まで	カイガラムシ類 ハダニ類	① 水 (88㍓)	発芽前まで — 発芽前まで —	250㍓	(1) マン油等を使用する時は、低温時の使用を避け好次の続く時に使用する。 (2) 薬剤散布前に必ず箱交割りを行う。 (3) 5月中旬まで輪紋病のいぼ皮膚斑は必ず削り取りトップジンMペーストを塗布する。(3回以内) (4) 前年胴枯病の発生が多かった圃地では、石灰硫黄合剤10倍を必ず散布する。	/	/
		② スプレーオイル 50倍 (2㍓)					
		③ 石灰硫黄合剤 10倍 (10㍓)					
胴枯病 対策	西洋なしは胴枯病に弱く、薬剤だけでは防げないため、以下の耕作的防除を実施する。常日頃から圃地を見て回り、早期発見に努める。病根を少しでも残すと再発するので、発病部を発見したら剪除し、切れない枝は健全部を含めて大きく削り取り、トップジンMペーストを塗布する。胴枯病(腐らん病)の発生している圃地では、5月中旬と下旬の2回トップジンM水和剤1000倍(前日まで6回以内)を必ず散布すると共に、健全な樹勢を保ち枝の更新に努め、明るい風通しの良い圃地づくりを目指す。						
フェロモン剤設置時期(4月20日頃)【ハマキムシ・シンクイムシ対策はコンフェューザーN150~200本/10a】							
満開直後 (100%開花時)	ハマキムシ類	① フェニックスフロアブル 4,000倍 (25m㍓)	前日まで 2回以内	400㍓	(1) 訪花昆虫の活動時間前(15℃になる前)にできるだけ防除を終了する。	/	/
ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護するため、りんごの花が終わるまで殺虫剤(BT剤、IGR剤、モスピラン、フェニックス、サムコルを除く)の散布は行わない。							
落花1週間後 (5月中旬)	腐らん病 輪紋病 アブラムシ類 シンクイムシ類	① アピオン-E(展着剤) 1,000倍 (100m㍓)	—	400㍓	(1) 胴枯病の萎凋死花そうや、枯死枝は病部を確認し、徹底して取り除き処分する。 (2) 6月上旬までの薬剤散布は果実にさび果が発生したり、落果に及ぼす影響が強いので薬剤は散布しない。 (3) 訪花昆虫の活動時間前(15℃になる前)にできるだけ防除を終了する。 (4) ハマキムシ類の発生が見られる圃地では、バイオマックスDF2000倍を加用散布する。(前日まで)	/	/
		② トップジンM水和剤 1,000倍 (100g)	前日まで 6回以内				
		③ モスピラン水溶剤 4,000倍 (25g)	前日まで 3回以内				
フェロモン剤設置時期(5月20日頃)【ハマキムシ対策はハマキコン-N150本/10a(すでにコンフェューザーを設置した場合は必要ない)】							
5月下旬 (5/25頃)	腐らん病 輪紋病 カメムシ類 アブラムシ類 シンクイムシ類	① アピオン-E(展着剤) 1,000倍 (100m㍓)	—	500㍓	(1) 輪紋病・胴枯病の重要な防除時期であるので散布間隔をあげないよう7月下旬まで枝幹にも十分散布する。 (2) スプラサイド水和剤を使用する場合は、美害の恐れがあるので高温時(25℃以上)に散布はしない。また、さくらんぼの「紅きらり」に薬害が生じるため、注意する。	/	/
		② トップジンM水和剤 1,000倍 (100g)	前日まで 6回以内				
		③ スプラサイド水和剤 1,500倍 (66g)	45日前まで 2回以内				
仕上げ摘果は4頂芽に1果を目安とし、落花後40日(6月上旬)ぐらいたままで終わる。基部から数えて2~4番目の果実を残す。							
輪紋病	6月上旬	① アピオン-E(展着剤) 1,000倍 (100m㍓)	—	500㍓	(1) この回以降、輪紋病・胴枯病の重要な防除時期となりますので、防除間隔があかないようにする。 (2) 降雨が続く場合は、トップジンM水和剤1500倍を加用する。 (3) 散布予定日に降雨が予想される場合は、降雨前に防除を行う。	/	/
		② オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50m㍓)	前日まで 3回以内				
6月中旬	黒斑病・黒星病 輪紋病 うどんこ病	① アピオン-E(展着剤) 1,000倍 (100m㍓)	—	500㍓		/	/
		② ベルクート水和剤 1,000倍 (100g)	14日前まで 5回以内				
ハダニ対策 ダニ剤散布7日前に除草剤を使用するか、ダニ剤散布4日前に草刈を実施する。							
重病	6月下旬 (平年6月25日) 前回散布10日後	① アピオン-E(展着剤) 1,000倍 (100m㍓)	—	500㍓	(1) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチェ)ぶどう(ピオーネ、藤稜、サニール・ジュ、シャルドネ)に薬害があるので注意する。 (2) ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラの無いように十分散布する。	/	/
		② ナリアWDG 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内				
		③ サムコルフロアブル10 5,000倍 (20m㍓)	3日前まで 3回以内				
		④ スターマイトフロアブル 2,000倍 (50m㍓)	前日まで 1回				
※有機銅剤散布後すぐに降雨があった場合追加散布する。 薬剤散布を行う場合は、気温25℃以上の時は散布を控えるとともに、散布後急激に温度が上がる事が予想される場合も散布を控える。							
防除時期	7月上旬	① アピオン-E(展着剤) 1,000倍 (100m㍓)	—	500㍓	(1) 降雨が続く場合は、さらにオキシンドー水和剤80、1200倍(3日前まで9回以内)を散布する。	/	/
		② オキシンドー水和剤80 1,200倍 (83g)	3日前まで 9回以内				
		③ ダースバンドF 3,000倍 (33g)	21日前まで 3回以内				
7月中旬	黒星病 輪紋病 ハマキムシ類 アブラムシ類 シンクイムシ類	① アピオン-E(展着剤) 1,000倍 (100m㍓)	—	500㍓		/	/
		② オキシラン水和剤 600倍 (166g)	3日前まで 9回以内				
		③ ダイアジノン水和剤34 1,000倍 (100g)	14日前まで 6回以内				
7月下旬	黒斑病 輪紋病 アブラムシ類 ハマキムシ類 シンクイムシ類 ハダニ類	① アピオン-E(展着剤) 1,000倍 (100m㍓)	—	500㍓	(1) バイソライドEWは、魚類に対する毒性が強いため、絶対に使用しない。	/	/
		② オキシンドー水和剤80 1,200倍 (83g)	3日前まで 9回以内				
		③ バイソライドEW 2,000倍 (50m㍓)	7日前まで 2回以内				
		④ コロマイト水和剤 2,000倍 (50g)	前日まで 1回				
8月上旬 (8/10頃)	黒星病 輪紋病 シンクイムシ類	① オキシラン水和剤 600倍 (166g)	3日前まで 9回以内	500㍓	(1) ダニゲッターフロアブルは、開花期の水稲に飛散した場合、不稔などの薬害を生じる場合があるのでかからないように注意する。	/	/
		② サムコルフロアブル10 5,000倍 (20m㍓)	3日前まで 3回以内				
8月下旬 (8/25頃)	うどんこ病 輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類・アブラムシ類	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50m㍓)	前日まで 3回以内	500㍓	(1) 今回以降ハダニ類の発生が見られる圃地では、ダニゲッターフロアブル2000倍(前日まで1回)を散布する。 この回サイハロン水和剤を使えないところでは、アグロスリン水和剤1000倍(前日まで3回以内)に替えて散布する。(早生種収穫期)	/	/
		② サイハロン水和剤 2,000倍 (50g)	7日前まで 3回以内				
9月上旬	黒斑病 輪紋病 アブラムシ類 シンクイムシ類	① ハイテンパワー(展着剤) 10,000倍 (10m㍓)	—	500㍓		/	/
		② オキシンドー水和剤80 1,200倍 (83g)	3日前まで 9回以内				
		③ モスピラン水溶剤 4,000倍 (25g)	前日まで 3回以内				
9月中旬	黒斑病 輪紋病 アブラムシ類 シンクイムシ類	① オキシンドー水和剤80 1,200倍 (83g)	3日前まで 9回以内	500㍓	降雨が多い場合は、オキシンドー水和剤80 1200倍(3日前まで9回以内)を散布する。 (1) スカウトフロアブルは、魚類に対する毒性が強いため、絶対に使用しない。	/	/
		② スカウトフロアブル 2,000倍 (50m㍓)	前日まで 5回以内				

# 平成24年 りんご病害虫防除暦 (No1)



防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100%)	農薬適正使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (×モ)
散布前までに輪紋病の原因となる、いぼ皮病斑をけずり取りトップジンMペーストを塗布する。(3回以内)							
発芽前まで	カイガラムシ類 ハダニ類 腐らん病	① 水 (88%)	—	350%	(1) マシン油等を使用する時は、低温時の使用をさけ好天の続く時に使用する。 (2) 腐らん病防除の石灰硫黄合剤を散布できない場合は、トップジンM水和剤1000倍(前日まで6回以内)を加用しスプレーオイル50倍を必ず散布する。	—	—
		② スプレーオイル 50倍 (2%)	発芽前まで				
		③ 石灰硫黄合剤 10倍 (10%)	発芽前まで				
フェロモン剤設置時期(4月20日頃)【ハマキムシ・シンクイムシ対策はコンフューザーN150~200本/10a】							
黒 星	黒星病 モニリア病	① アピオン-E(展着剤) 1,000倍(100ml)	—	350%	(1) ギンモンハモグリガの発生が多かった園地では、モスピラン水溶液4000倍を単用散布する。(前日まで3回以内)	—	—
		② ストライド顆粒水和剤 1,500倍(66g)	開花前まで 2回以内				
摘花剤の散布: 1回目側花の7~8割開花時、2回目えき花芽の7~8割開花時 エコルキー100~150倍(2回以内)を300~600%/10aめしへに充分薬液がかかるように散布(中心花の結実が良好と思われる場合に使用する)。SSで散布する場合はファンを止めて散布する。							
病	開花直前	① アピオン-E(展着剤) 1,000倍(100ml)	—	400%	(1) 訪花昆虫の活動時間前(15℃になる前)にできるだけ防除を終了する。	—	—
		② アンピルフロアブル 1,000倍(100ml)	7日前まで 3回以内				
		③ フェニックスフロアブル 4,000倍(25ml)	前日まで 2回以内				
ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護する為、りんごの花が終わるまで殺虫剤(BT剤、IGR剤、モスピラン、フェニックス、サムコルを除く)の散布は行わない。							
点 防 除	落花直後 ふじの中心花 80%落花時	① アピオン-E(展着剤) 1,000倍(100ml)	—	500%	(1) 腐らん病の発生している園地では、トップジンM水和剤1000倍(前日まで6回以内)を必ず散布する。 (2) ハマキムシ類の発生が見られる園地では、バイオマックスDF2000倍を加用する。(前日まで)	—	—
		② スコア顆粒水和剤 3,000倍(33g)	14日前まで 3回以内				
		③ モスピラン水溶液 4,000倍(25g)	前日まで 3回以内				
薬剤による摘果は「ふじ」「紅玉」を対象にマイクロデナボン水和剤85、1200倍(2回以内)を10a当たり400%散布する。散布時期は満開後2~3週間頃。							
腐らん病対策 常日頃から腐らん病に注意して園地を見て回り、早期発見に努める。発病部を発見したら病患部は、健全部を含めて大きく削り取り、トップジンM水和剤を5月中に2回散布する。病患部が幹全体におよんでいる場合は、樹全体を処分(根元から切り取り処分)する。枝腐らんは切り取り処分する。腐らん病(網枯病)の発生している園地では、5月中旬と下旬の2回トップジンM水和剤1000倍(前日まで6回以内)を必ず散布する。							
フェロモン剤設置時期(5月20日頃)【ハマキムシ対策はハマキコン-N150本/10a(すでにコンフューザーNを設置した場合は必要ない)】							
5月下旬 (前回防除の2週間後)	斑点落葉病 腐らん病 モニリア病 クワコナカイガラムシ ナシヒメシンクイ モモシンクイガ アブラムシ類 カメムシ類 ハマキムシ類 (コクモムハマキは除く)	① アピオン-E(展着剤) 1,000倍(100ml)	—	500%	(1) スプラサイド水和剤は、さくらんぼの「紅きりり」に薬害を生じるので注意する。 (2) アブラムシ、リンゴワタムシの発生が多い園地では、ウララDF2000倍を散布する。(14日前2回以内)	—	—
		② ロブラール水和剤 1,500倍(66g)	14日前まで 5回以内				
		③ トップジンM水和剤 1,000倍(100g)	前日まで 6回以内				
		④ スプラサイド水和剤 1,500倍(66g)	30日前まで 2回以内				
前年、モモンクイガの発生が多かった園地では、ダイアジノン粒剤5を10a当たり4kg(60日前まで4回以内)5月下旬と6月上旬の2回地表散布する。							
果 実 腐 敗	6月上中旬 (6/10頃)	① アピオン-E(展着剤) 1,000倍(100ml)	—	500%	(1) 有機銅剤は満開40日(6月中旬)以前の散布はサビ果の発生を多くするので早期散布をさける。  降雨が続く場合は、 ベルコート水和剤 1,000倍 (前日まで3回以内)を追加散布する。	—	—
		② オンリーワンフロアブル 2,000倍(50ml)	14日前まで 3回以内				
		③ ハリアード顆粒水和剤 4,000倍(25g)	前日まで 3回以内				
ハダニ対策 ダニ剤散布7日前に除草剤を使用するか、ダニ剤散布4日前に草刈を実施する。							
病 害 重 点 防 除	6月下旬 (6/25頃)	① アピオン-E(展着剤) 1,000倍(100ml)	—	500%	(1) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチエ)ぶどう(ピオーネ、藤稜、サニール-ジユ、シャルドネ)に薬害があるので注意する。 (2) ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラの無いように十分散布する。 (3) アブラムシ、リンゴワタムシの発生が多い園地では、ウララDF2000倍を散布する。(14日前2回以内)	—	—
		② ナリアWDG 2,000倍(50g)	前日まで 3回以内				
		③ サムコルフロアブル10 5,000倍(20ml)	前日まで 3回以内				
		④ スターマイトフロアブル 2,000倍(50ml)	前日まで 1回				
※ 薬剤散布を行う場合は、気温25℃以上の時は散布を控えるとともに、散布後急激に温度が上がる事が予想される場合も散布を控える。 仕上げ摘果は遅くとも6月下旬まで終わす。(畝林は7月中旬まで)							

# 平成24年 りんご病害虫防除暦 (No2)



防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100%)	農薬適正使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (メモ)
7月上旬	褐斑病・すす斑病 輪紋病・黒星病 斑点落葉病 モモシクイガ ハマキムシ類 リンゴワタムシ	① アビオン-E (展着剤) 1,000倍 (100ml)	—	500%	(1) 斑点落葉病の伝染源を少なくするため余分な徒長枝は剪除する。 (2) 有機銅剤は散布後降雨があると、薬害が発生するので注意する。 (特につがる、スターキングテリシャス、王林) (3) ダースバンドFはさくらんぼに薬害がでるので注意する。	/	
		② オキシンドー水和剤80 1,200倍 (83g)	14日前まで 4回以内				
		③ ダースバンドF 3,000倍 (33g)	14日前まで 2回以内				
降雨が続くときの散布 (7月中旬)	褐斑病 すす点病・すす斑病 炭疽病 斑点落葉病	① アビオン-E (展着剤) 1,000倍 (100ml)	—	500%		/	
		② オキシラン水和剤 600倍 (166g)	14日前まで 4回以内				
7月下旬 (7/25頃)	炭疽病・輪紋病 すす点病・すす斑病 褐斑病 斑点落葉病 ハマキムシ類 ギンモンハモグリガ キンモンホソガ シンクイムシ類 リンゴハダニ	① アビオン-E (展着剤) 1,000倍 (100ml)	—	500%	(1) バイスロイドEWは、魚類に対する毒性が強いため養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 (2) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチェ)ぶどう(ピオーネ、藤稜、サニールージュ、シャルドネ)に薬害がでるので注意する。 <b>青つがる(益用)には、散布しないよう注意する。</b>	/	
		② ナリアWDG 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内				
		③ バイスロイドEW 2,000倍 (50ml)	7日前 4回以内				
		④ コロマイト水和剤 2,000倍 (50g)	前日まで 1回				
8月上旬 (8/10頃)	褐斑病 すす点病・すす斑病 斑点落葉病 ハマキムシ類 ギンモンハモグリガ キンモンホソガ シンクイムシ類	① オキシンドー水和剤80 1,200倍 (83g)	14日前まで 4回以内	500%	(1) ダニゲッターフロアブルは、開花期の水稲に飛散した場合、不稔などの薬害を生じる場合があるのでからないように注意する。 <b>早生種の散布は収穫14日前まで終了する。</b>	/	
		② サムコフロアブル10 5,000倍 (20ml)	前日まで 3回以内				
8月下旬 (8/25頃)	斑点落葉病 褐斑病・(黒星病) 輪紋病・黒点病 すす点病・すす斑病 シンクイムシ類・ハマキムシ類 キンモンホソガ ギンモンハモグリガ	① ハイテンパワー (展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500%	(1) 今回の霜害発生がみられる園地では、ダニゲッターフロアブル2000倍(前日まで1回)を単用散布する。 (2) サイハロン水和剤は、魚類に対する毒性が強いため養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 <b>この回サイハロン水和剤を使えないところでは、アグロスリン水和剤1000倍(前日まで2回以内)に替えて散布する。</b>	/	
		② ベルクート水和剤 1,000倍 (100g)	前日まで 3回以内				
		③ サイハロン水和剤 2,000倍 (50g)	7日前まで 3回以内				
9月上旬	褐斑病 すす点病 すす斑病 斑点落葉病 アブラムシ類 キンモンホソガ ギンモンハモグリガ シンクイムシ類 リンゴワタムシ カメムシ類	① ハイテンパワー (展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500%		/	
		② アリエッティ水和剤 1,000倍 (100g)	前日まで 3回以内				
		③ モスピラン水溶剤 4,000倍 (25g)	前日まで 3回以内				
落果防止剤の使用	ストッポール液剤1000倍を10a当たり450~600%散布する。(収穫開始予定日の25日前~7日前まで)						
	畠林	9月1日頃	やだか・千秋	9月5日頃			
	紅玉・スターキング	9月10日頃	王林	10月1日頃			
	「秋陽」は9月5日頃、ストッポール液剤1500倍を10a当たり450~600%散布する。(収穫開始予定日の25日前 1回のみ)						
9月中下旬 (晩生種のみ)	褐斑病 黒星病・黒点病 すす点病・すす斑病 炭疽病 斑点落葉病 キンモンホソガ ギンモンハモグリガ シンクイムシ類 ハマキムシ類	① ストライド顆粒水和剤 1,500倍 (66g)	開花期から 3日前まで 3回以内	500%	(1) 今回の霜害発生前まで、低温で降雨が続く場合は、フリントフロアブル25、2000倍(前日まで4回以内)を散布する。 (2) スカウトフロアブルは、魚類に対する毒性が強いため養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 <b>この回以降の防除は『王林・ふじ』などの晩生種のための散布とする。</b>	/	
		② スカウトフロアブル 2,000倍 (50g)	前日まで 5回以内				
収穫後	腐らん病	① アビオン-E (展着剤) 1,000倍 (100ml)	—	350%	(1) 腐らん病防除のため、必ず散布する。	/	
		② ヘフラン液剤25 1,000倍 (100ml)	休眠期 6回以内				

2011年12月現在

晩腐病対策のためのカサかけ・枝かけ具の徹底

1. 第2回ジベ処理直後できる限り早くカサかけを行なう。
2. カサかけが遅れると効果が劣る。
3. カサかけは、雨もりを防ぐため果梗に密着するよう丁寧に行なう。
4. カサかけと枝かけ具の併用は、更に効果が高い。
5. 枝かけ具は休眠期から5月下旬までにかけて、その後風などでずれた場合は効果が劣るので随時手直しする。
6. 収穫後できるだけ早く除去する。

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・回数 (薬量/水100%)	農薬適正使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (メモ)
3月下旬～ 4月中旬	晩腐病 黒とう病 ハダニ類	① ハイテンパワー(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	200%	(1) 前年の房に残りの部分や巻ヒゲ及び結果母枝の枯死部分などの除去は、晩腐病防除に重要であるので徹底する。 (2) 前年度晩腐病が発生した園地では、結果母枝にトップジンMペースト3倍液(休眠期3回以内)を塗布する。なお、萌芽後の使用は葉害が生じる恐れがあるので、必ず萌芽前に使用する。 (3) ヘンレート水和剤と石灰硫黄合剤の混用は使用直前とし、混用する場合、ヘンレート水和剤を希釈した液に石灰硫黄合剤を混用する。	/	
		② ヘンレート水和剤 500倍 (200ml)	休眠期1回				
		③ 石灰硫黄合剤 20倍 (5%)	発芽前まで				
ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護するため、りんごの花が終わるまで殺虫剤の散布は行わない。							
5月中旬 (展葉2～3枚)	ハと病・晩腐病 褐斑病・黒とう病 フタテンヒメヨコバイ アザミウマ類 カイガラムシ類	① ホライズンドライフロアブル 2,500倍 (40g)	21日前まで 3回以内	200%	(1) クロヒメゾウムシの多い園地では、モスピラン水溶液にかえてマイクロテナボン水和剤85、1000倍を散布する(60日前まで1回以内)。ただし、りんご園に近接する所ではりんご園にかからない様に散布する。	/	
		② モスピラン水溶液 4,000倍 (25g)	14日前まで 3回以内				
第1回目ジベ処理は満開予定日の約14日前に100ppm(2%の水に薬量は200mg)で実施する。 処理が遅れた場合は、ストマイ液剤20、1000倍を加用して処理する。							
開花直前 6月上旬 第1回ジベ処理後	ハと病 黒とう病 晩腐病 さび病 灰色かび病 コガネムシ類 チャノキロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ	① ベンコゼブ水和剤 1,000倍 (100g)	60日前まで 2回以内	300%	(1) コウモリガの加害時期なので、幹周辺を清掃し、見つけ次第捕殺する。	/	
		② オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内				
		③ アグロスリン水和剤 2,000倍 (50g)	7日前まで 5回以内				
6月中旬 (落花直後)	晩腐病・褐斑病 黒とう病・さび病 灰色かび病・ハと病	① アミスター10フロアブル 1,000倍 (100ml)	30日前まで 3回以内	300%	(1) 汚染防止のため、この時期より展着剤を使わない。 (2) アミスター10フロアブルはりんごに葉害が出るので絶対に飛散しない様に注意する。	/	
第2回目ジベ処理は6月中下旬に75ppm(2%の水に薬量は150mg)で実施する。							
6月下旬 第2回ジベ処理後	黒とう病・晩腐病 さび病・灰色かび病 カメムシ類・コガネムシ類 チャノキロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	300%	(1) 6月下旬になると、晩腐病の胞子が雨によって多く飛散するので丁寧に散布する。	/	
		② ダントツ水溶液 4,000倍 (25g)	前日まで 3回以内				
ハダニ対策 ダニ剤散布7日前に除草剤を使用するか、ダニ剤散布4日前に草刈を実施する。							
7月上旬	黒とう病・ハと病 枝影病・晩腐病 褐斑病 灰色かび病 ハダニ類	① ストロビードライフロアブル 2,000倍 (50g)	14日前まで 3回以内	300%	(1) ストロビードライフロアブルはさくらんぼに葉害があるので注意する。	/	
		② コロマイト水和剤 2,000倍 (50g)	7日前まで 2回以内				
ハと病・さび病の多発する園地では、7月上中下の3回棚上面からICボルドー66D 50倍(300%以上/10a)を散布する。 仕上げ摘房は、坪当たり45房を目安に7月上旬頃まで終了する。							
7月上旬以降、着色向上のため ホスプラス 1000倍を2週間に1回程度収穫まで2～3回棚上散布する。(亜リン酸液肥は、ICボルドーと混用できない。)							
収穫直後	ハと病 さび病 ブドウスカシバ フタテンヒメヨコバイ	① ICボルドー66D 50倍 (2kg)	—	250%	(1) さび病、ハと病の発生が多い園地では、9月上中旬にもICボルドー66D50倍を散布する。 (2) スミチオン乳剤はアブラナ科野菜(ハクサイ、青菜、ダイコン)などに葉害があるので注意する。	/	
		② スミチオン乳剤 1,000倍 (100ml)	90日前まで 2回以内				
9月中旬	ブドウトラカミキリ フタテンヒメヨコバイ	① スミチオン乳剤 1,000倍 (100ml)	90日前まで 2回以内	250%	(1) スミチオン乳剤はアブラナ科野菜(ハクサイ、青菜、ダイコン)などに葉害があるので注意する。	/	

# 平成24年 ぶどう(大粒種)病害虫防除暦



( キャンベルス・ナイヤガラ・スチューベン・ベニバラード・ピオーネ・巨峰・シャインマスカット等 )

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍率 (薬量/水100%)	農薬適正使用基準 収穫前使用時期 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (メモ)
発芽前 (4月中旬)	晩腐病 黒とう病 ハダニ類	① ハイテンパワー(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	200%	(1) 前年の房とり残しの部分や養ヒゲ及び結果母枝の枯死部分などの除去は晩腐病防除に重要であるので徹底する。 (2) 前年度晩腐病が発生した園地では、結果母枝にトップジンMペースト3倍液(休眠期3回以内)を塗布する。なお、萌芽後の使用は葉害が生じる恐れがあるので、必ず萌芽前に使用する。 (3) ペンレート水和剤と石灰硫黄合剤の混用は使用直前とし、混用する場合、ペンレート水和剤を希釈した液に石灰硫黄合剤を混用する。	/	
		② ペンレート水和剤 500倍 (200g)	休眠期 1回				
		③ 石灰硫黄合剤 20倍 (5%)	発芽前まで —				
<b>ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護するため、りんごの花が終わるまで殺虫剤の散布は行わない。</b>							
5月中旬 (展葉2~3枚)	べと病・晩腐病 褐斑病・黒とう病 フタテンヒメヨコバイ アザミウマ類 カイガラムシ類	① ホライズンドライフロアブル 2,500倍 (40g)	21日前まで 3回以内	200%	(1) 前年うどんこ病、黒とう病の発生が多かった園地では、マネージDF5000倍を加用する。(21日前まで3回以内) (2) クロビメソウムシの多い園地では、モスピラン水溶剤にかえて、ミクロテアホン水和剤85、1000倍を散布する。(60日前まで1回)ただし、りんご園に近接する所ではりんご園にからさない様に散布する。	/	
		② モスピラン水溶剤 4,000倍 (25g)	14日前まで 3回以内				
5月下旬	べと病 うどんこ病 黒とう病	① ハイテンパワー(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	200%		/	
		② リドミルゴールドMZ 1,000倍 (100g)	60日前まで 2回以内 (おし開花後1回)				
		③ マネージDF 5,000倍 (20g)	21日前まで 3回以内				
6月上旬 (開花前)	べと病 晩腐病・さび病 灰色かび病 チャノキアザミウマ フタテンヒメヨコバイ コガネムシ類	① ライメイフロアブル 4,000倍 (25ml)	14日前まで 3回以内	300%	(1) コウモリガの加害時期なので、幹周りを清掃し、見つけ次第捕殺する。	/	
		② オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内				
		③ アグロスリン水和剤 2,000倍 (50g)	7日前まで 5回以内				
<b>商品性の高い果実を生産するため、満開前に房づくりを行う。</b>							
6月中旬 (落花直後)	灰色かび病・べと病 黒とう病・晩腐病 褐斑病・さび病・枝膨病 べと病	① アミスター10フロアブル 1,000倍 (100ml)	30日前まで 3回以内	300%	(1) 満開時の散布をさける。 (2) 汚染防止のため、この時期より展着剤を使わない。 (3) アミスター10フロアブルはりんごに葉害が出るので絶対に飛散しない様に注意する。	/	
		② バトファイター顆粒水和剤 2,000倍 (50g)	30日前まで 3回以内				
6月下旬	晩腐病・さび病 灰色かび病 べと病 フタテンヒメヨコバイ チャノキアザミウマ	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	300%		/	
		② アリエッティ水和剤 800倍 (125g)	30日前まで 3回以内				
		③ ダントツ水溶剤 4,000倍 (25g)	前日まで 3回以内				
<b>ハダニ対策 ダニ剤散布7日前に除草剤を使用するか、ダニ剤散布4日前に草刈を実施する。</b>							
7月上旬	べと病 ハダニ類	① ランマンフロアブル 2,000倍 (50ml)	14日前まで 3回以内	300%	(1) ダニ剤を散布する場合は通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラのないように十分散布する。 (2) べと病が発生した場合は、バトファイター顆粒水和剤2000倍(30日前まで3回以内)を単用散布する。	/	
		② コロマイト水和剤 2,000倍 (50g)	7日前まで 2回以内				
7月中旬	黒とう病 べと病・晩腐病 灰色かび病 褐斑病 チャノキアザミウマ	① ストロビードライフロアブル 2,000倍 (50ml)	14日前まで 3回以内	250%	(1) ストロビードライフロアブルはさくらんぼに葉害があるので注意する。 (2) さび病の多発するところでは、7月上旬及び7月下旬に棚上からICボルドー66D50倍を散布する。	/	
		② テルスターフロアブル 4,000倍 (25ml)	14日前まで 2回以内				
<b>7月上旬以降、着色向上のため ホスプラス 1000倍を2週間に1回程度収穫まで2~3回棚上散布する。(亜リン酸液肥は、ICボルドーと混用できない。)</b>							
7月下旬 (袋かけ直後)	べと病 晩腐病・さび病 灰色かび病	① レーバフロアブル 3,000倍 (33ml)	14日前まで 3回以内	250%		/	
		② オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内				
8月中旬	べと病 さび病	① ICボルドー66D 50倍 (2kg)	—	250%	(1) 9月上旬にもICボルドー66D50倍を棚上から散布する。 (2) 袋かけ後に、チャノキアザミウマの発生が多い園地では、ダントツ水溶剤4000倍を単用散布する。(前日まで3回以内)	/	
収穫後	べと病 さび病 ブドウスカシバ ブドウトラカミキリ	① ICボルドー66D 50倍 (2kg)	—	250%	(1) ブドウトラカミキリの多い園地では、収穫後(休眠期)にラビキラー乳剤300倍を散布する。(休眠期2回以内)ラビキラー乳剤・スミチオン乳剤はアブラナ科野菜(ハクサイ、青菜、ダイコン)などに葉害があるので注意する。	/	
		② スミチオン乳剤 1,000倍 (100ml)	30日前まで 2回以内				

2011年12月現在

# 平成24年 すもも(フルーン)病害虫防除暦

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100%)	農薬適正使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (×モ)
発芽前 (3/19頃)	カイガラムシ類 ハダニ類 (ふくろみ病)	① 水 (86.7%)	発芽前まで	400%	(1) マシン油等を使用する時は、低温時の使用を避け好天の続く時に使用する。 (2) 発芽前までに遅れない様に散布する。 (3) 枝を洗うように丁寧に散布する。	/	
		② スプレーオイル 30倍 (3.3%)					
		③ 石灰硫黄合剤 10倍 (10%)					
フェロモン剤設置時期(4月20日頃)【 ハマキムシ・シンクイムシ対策はコンフューザーN150~200本/10a 】							
黒斑	開花前 黒斑病 かいよう病	① ICボルドー412 30倍 (3.3kg)	-	400%	(1) 前年度、黒斑病・かいよう病の発生があった園地では必ず散布する。	/	
	4月下旬 (満開3日後)	① マイコシールド 2,000倍 (50g)	21日前まで 3回以内	400%		/	
ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護する為、りんごの花が終わるまで殺虫剤(BT剤、IGR剤、モスピラン、サムコルを除く)散布は行わない。							
病重	5月上旬 (殺虫剤解禁後)	① アンビルフロアブル 1,000倍 (100ml)	前日まで 2回以内	400%	(1) ふくろみ病の被害果は見つけ次第摘み取り土中深く埋める。	/	
		② アグレプト水和剤 1,000倍 (100g)	30日前まで 2回以内				
		③ フェニックスフロアブル 4,000倍 (25ml)	前日まで 2回以内				
	5月中旬	炭疽病 黒斑病 かいよう病	① トレノックスフロアブル 500倍 (200ml)	14日前まで 3回以内	500%	(1) カイガラムシ類幼虫の発生が多い園地ではアブロードフロアブル1000倍を単用散布する。(14日前まで2回以内)	/
シンクイムシ類		② アグレプト水和剤 1,000倍 (100g)	30日前まで 2回以内				
		③ モスピラン水溶剤 4,000倍 (25g)	前日まで 3回以内				
5月下旬	黒斑病 シンクイムシ類	① マイコシールド 2,000倍 (50g) ② ダイアジノン水和剤34 1,000倍 (100g)	21日前まで 3回以内 21日前まで 4回以内	500%		/	
フェロモン剤設置時期(5月20日頃)【 コスカシバ対策はスカシバコン50~100本/10a、ハマキムシ類対策はハマキコン-N150本/10a 】							
6月上旬 (6/10頃)	炭疽病 アブラムシ類 シンクイムシ類 モモンゴマダラノメイガ	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	500%	(1) ふくろみ病の被害果は見つけ次第摘み取り土中深く埋める。	/	
		② バリアード顆粒水和剤 4,000倍 (25g)	前日まで 2回以内				
		③ ナリアWDG 2,000倍 (50ml)	7日前まで 2回以内				
6月下旬 (6/25頃)	シンクイムシ類 ハダニ類	② サムコルフロアブル10 2,500倍 (40ml)	3日前まで 3回以内	500%	早生種の散布は収穫7日前まで終了する。	/	
		③ スターマイトフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 1回				
		① アンビルフロアブル 1,000倍 (100ml)	前日まで 2回以内				
7月上旬 (7/10頃)	炭疽病 シンクイムシ類	② モスピラン水溶剤 4,000倍 (25g)	前日まで 3回以内	500%		/	
7月下旬 (7/25頃)	炭疽病 シンクイムシ類 アブラムシ類	① パスワード顆粒水和剤 1,500倍 (66g)	前日まで 2回以内	500%	(1) ハダニ類の発生がみられる場合は、ダニゲッターフロアブル2000倍(前日まで1回)を加用散布する。	/	
		② スカウトフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内				
8月上旬	炭疽病 アブラムシ類 シンクイムシ類 モモンゴマダラノメイガ	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	500%	太陽の収穫時期のため薬剤散布は、収穫前日数に注意する。	/	
		② バリアード顆粒水和剤 4,000倍 (25g)	前日まで 2回以内				
8月下旬 ~ 9月上旬	炭疽病 すす点病 シンクイムシ類 アブラムシ類	① アミスター10フロアブル 1,000倍 (100ml)	前日まで 3回以内	500%	晩生種のみ散布する。	/	
		② スカウトフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内				
黒斑病重点防除	かいよう病 黒斑病	① ICボルドー412 30倍 (3.3kg)	-	500%	黒斑病の多発した園地では、ICボルドー412 30倍を落葉初期に追加散布する。	/	
		① ICボルドー412 30倍 (3.3kg)	-	500%		/	
収穫後~発芽前 (幼虫食入期)	コスカシバ	① トラサイドA乳剤 200倍 (500ml)	落葉後~発芽前 2回以内	350%	(1) トラサイドA乳剤はアブラナ科野菜(ハクサイ、青菜、ダイコン)などに薬害があるので注意する。	/	

2011年12月現在

# 平成24年 うめ病害虫防除暦



防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100%)	農業適正使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (×モ)
3月中旬 (発芽前)	(ハダニ類・縮葉病) →	① 水 (90%)	発芽前まで	300%	(1) 品種や系統によって発芽が非常に異なることがあるので、適期防除に努める。	/	
		② 石灰硫黄合剤 10倍 (10%)					
4月下旬 (落花直後)	黒星病 すす斑病	① ハイテンパワー(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	300%	(1) ヤニ吹き果の多い樹では、この回以降3回、ヨービB5、800倍を加用散布する。	/	
		② デランフロアブル 2,000倍 (50ml)	45日前まで1回				
5月上旬 (5月10日頃)	黒星病 アブラムシ類	① ハイテンパワー(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	400%	(1) 訪花昆虫保護のため、訪花昆虫の活動前(15℃になる前)に防除を終了する。	/	
		② サルファースル 500倍 (200ml)	—				
		③ モスピラン水溶剤 4,000倍 (25g)	前日まで3回以内				
<b>フェロモン剤設置時期(5月20日頃)【コスカシバ対策 スカシバコン 50~100本/10a】</b>							
5月下旬 (5月20日頃)	枝枯病 黒星病 すす斑病	① ハイテンパワー(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	400%	(1) ベルクート水和剤は、この時期西洋なしに薬害があるので注意する。	/	
		② ベルクート水和剤 2,000倍 (50g)	30日前まで3回以内				
6月中旬 (6月15日頃)	黒星病 すす斑症 アブラムシ類	① ハイテンパワー(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	400%	(1) 日中高温時(25℃以上)の散布は避ける。 (2) 小梅系及び白加賀は今回が最終散布となるので遅れないよう防除する。	/	
		② スコア顆粒水和剤 3,000倍 (33g)	7日前まで3回以内				
		③ アディオン水和剤 2,000倍 (50g)	前日まで2回以内				
8月中旬 (収穫後)	アブラムシ類 ハマキムシ類 ハダニ類	① スミチオン乳剤 1,000倍 (100ml)	14日前まで2回以内	400%	(1) スミチオン乳剤は、アブラナ科野菜(白菜・青菜・ダイコン)などに薬害があるので注意する。	/	
		② スターマイトフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで1回				
12月	カイガラムシ類	① スプレーオイル 30倍 (3.3%)	12月	300%	(1) マシン油等を使用する時は、低温時の使用を避け好天の続く時に使用する。	/	

# 平成24年 かき病害虫防除暦

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100%)	農業適正使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (×モ)
休眠期 (発芽前)	(クワシロカイガラムシ) →	① 水 (96.7%) ② スプレーオイル 30倍 (3.3%)	発芽前まで	500%	(1) マシン油等を使用する時は、低温時の使用を避け好天の続く時に使用する。	/	
<b>ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護する為、りんごの花が終わるまで殺虫剤(BT剤、IGR剤、モスピラン、サムコルを除く)散布は行わない。</b>							
5月中旬	アザミウマ類 カイガラムシ類 カメムシ類 カキノヒメヨコバイ カキノハタムシガ	① ハイテンパワー(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500%	(1) ハマキムシ類の発生が多い園地ではさらにダイアジノン水和剤34、1000倍を散布する。(45日前まで4回以内)	/	
		② モスピラン水溶剤 4,000倍 (25g)	前日まで3回以内				
開花直前 (5月下旬頃)	落葉病 炭疽病 チャノキアザミウマ	① デランフロアブル 2,000倍 (50ml)	90日前まで5回以内	500%	(1) スプラサイド水和剤は、さくらんぼの「紅きらり」に薬害が生じるので注意する。	/	
		② スプラサイド水和剤 1,000倍 (100g)	30日前まで3回以内				
満開期 (6月10日頃)	炭疽病・うどんこ病 アザミウマ類 カキノハタムシガ	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	14日前まで3回以内	500%	(1) 落葉病とアザミウマ類防除の重要な時期なので、遅れないように葉裏まで丁寧に散布する。	/	
		② アグロスリン水和剤 1,000倍 (100g)	前日まで3回以内				
6月下旬	炭疽病・落葉病 うどんこ病・黒星病 アザミウマ類 カキノヒメヨコバイ	① ハイテンパワー(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500%		/	
		② ベルクート水和剤 1,500倍 (66g)	14日前まで3回以内				
		③ ダントツ水溶剤 4,000倍 (25g)	7日前まで3回以内				
7月中旬	落葉病・炭疽病 うどんこ病 アザミウマ類 カキノハタムシガ	① ハイテンパワー(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500%		/	
		② オキシンドー水和剤80 1,000倍 (100g)	14日前まで5回以内				
7月下旬	アザミウマ類 カキノハタムシガ	② アグロスリン水和剤 1,000倍 (100g)	前日まで3回以内	500%		/	
		① ハイテンパワー(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—				
7月下旬	落葉病・炭疽病 うどんこ病 チャノキアザミウマ カキクダアザミウマ ハダニ類 カキノヒメヨコバイ	① ハイテンパワー(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500%		/	
		② オキシンドー水和剤80 1,000倍 (100g)	14日前まで5回以内				
		③ テルスター水和剤 1,000倍 (100g)	14日前まで2回以内				
8月中旬	落葉病・炭疽病 黒点病・うどんこ病 チャノキアザミウマ	① アミスター10フロアブル 1,000倍 (100ml)	7日前まで3回以内	500%	(1) アザミウマ類防除の特に重要な時期である。 (2) 降雨の続く場合は、さらに9月上旬にサニバー600倍を散布する。(21日前まで5回以内) (3) チャノキアザミウマの発生が多い場合は、9月上旬にアディオン乳剤3000倍を散布する。(7日前まで5回以内)	/	
		② スプラサイド水和剤 1,000倍 (100g)	30日前まで3回以内				

2011年12月現在